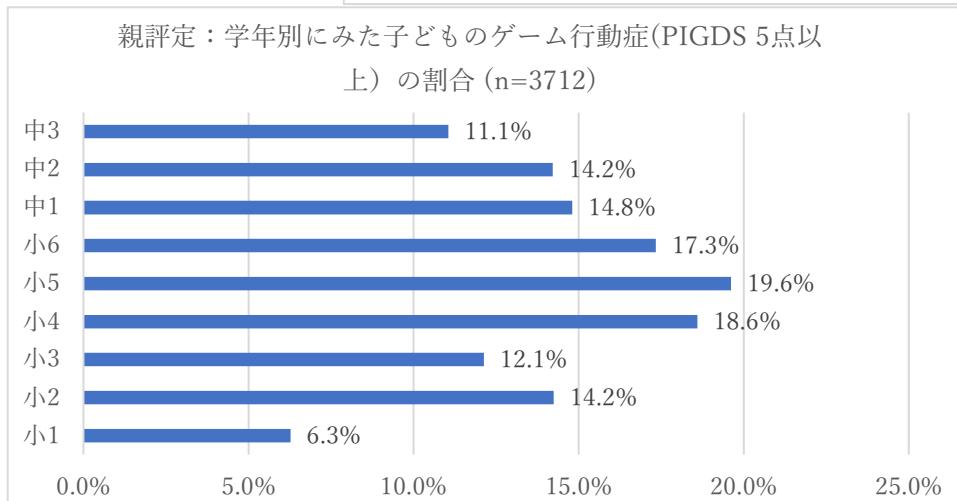
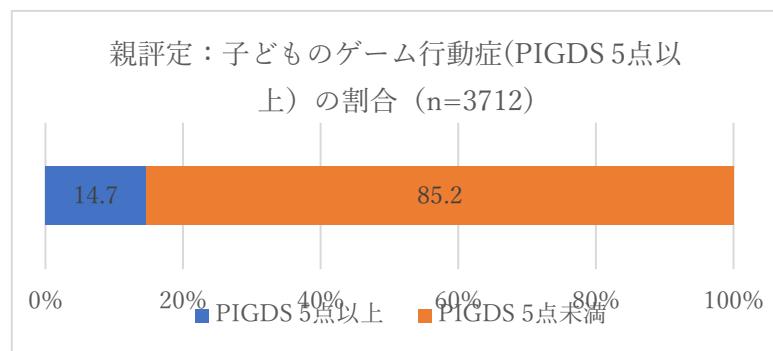


令和6年度 松江市「子どもの電子メディア機器利用に関するアンケート(保護者用)」の結果

島根大学 横原 文

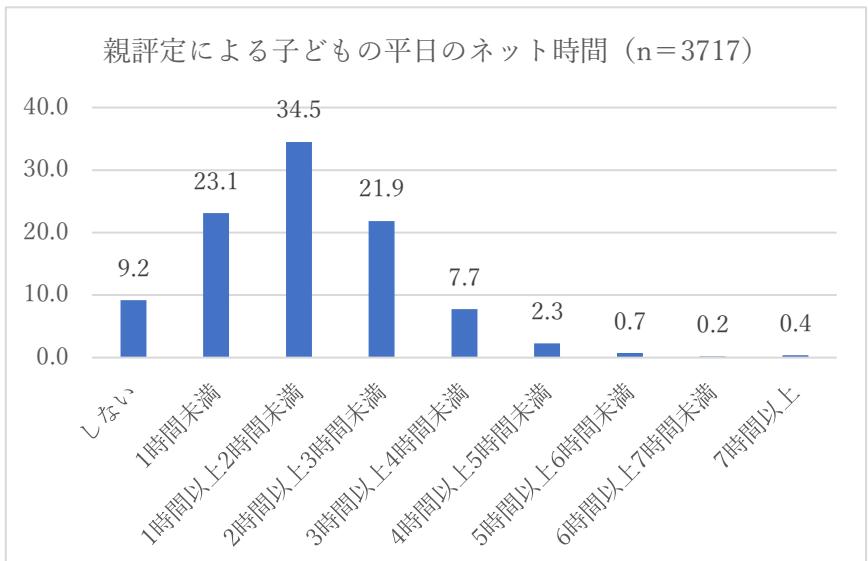
親評定による子どものゲーム行動症(PIGDS)5点以上の割合

	件数	%
PIGDS 5点以上	545	14.7
PIGDS 5点未満	3167	85.2

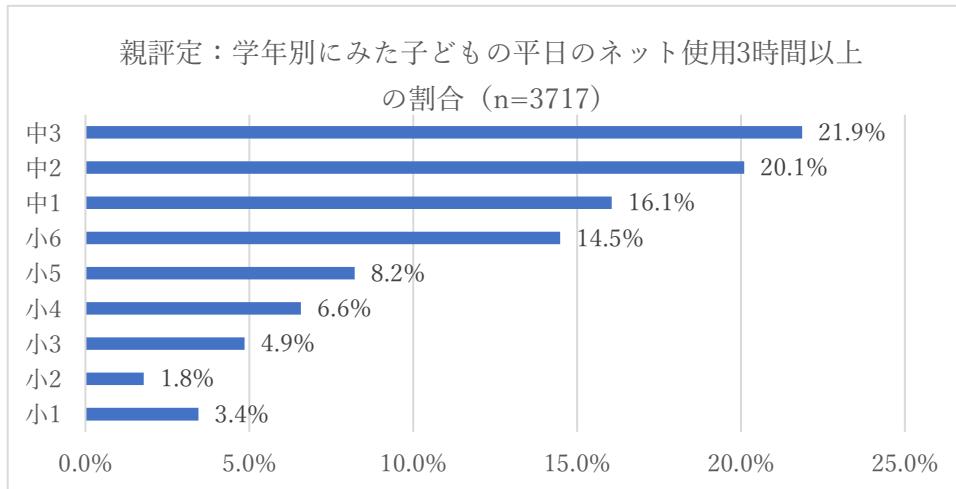
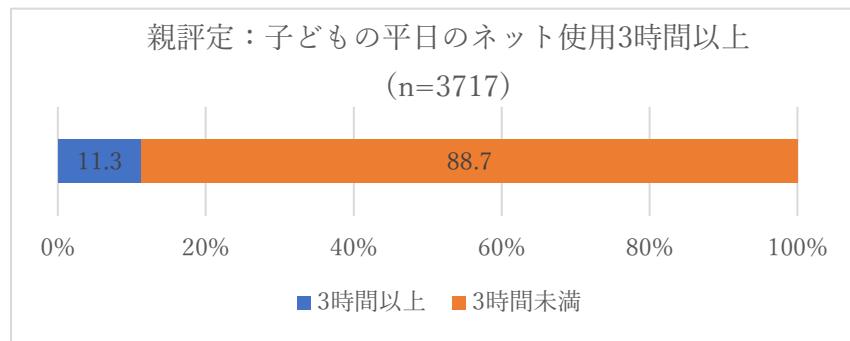


親評定による子どもの平日のネット使用(学習時間を除く)

	件数	%
しない	342	9.2
1時間未満	859	23.1
1時間以上2時間未満	1283	34.5
2時間以上3時間未満	813	21.9
3時間以上4時間未満	288	7.7
4時間以上5時間未満	84	2.3
5時間以上6時間未満	27	0.7
6時間以上7時間未満	7	0.2
7時間以上	14	0.4

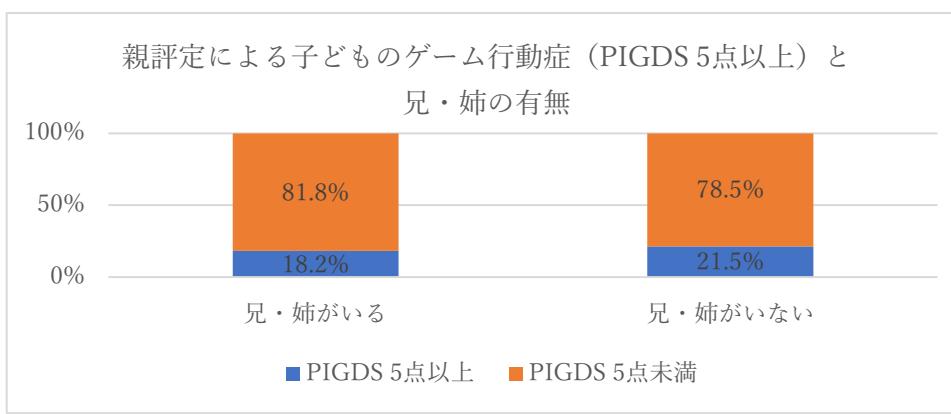
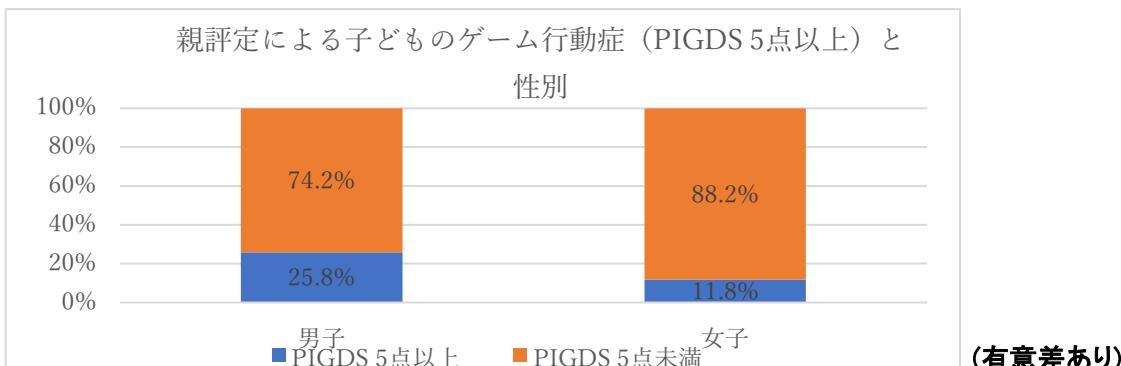


	件数	%
平日のネット使用 3時間以上	420	11.3
平日のネット使用 3時間未満	3297	88.7

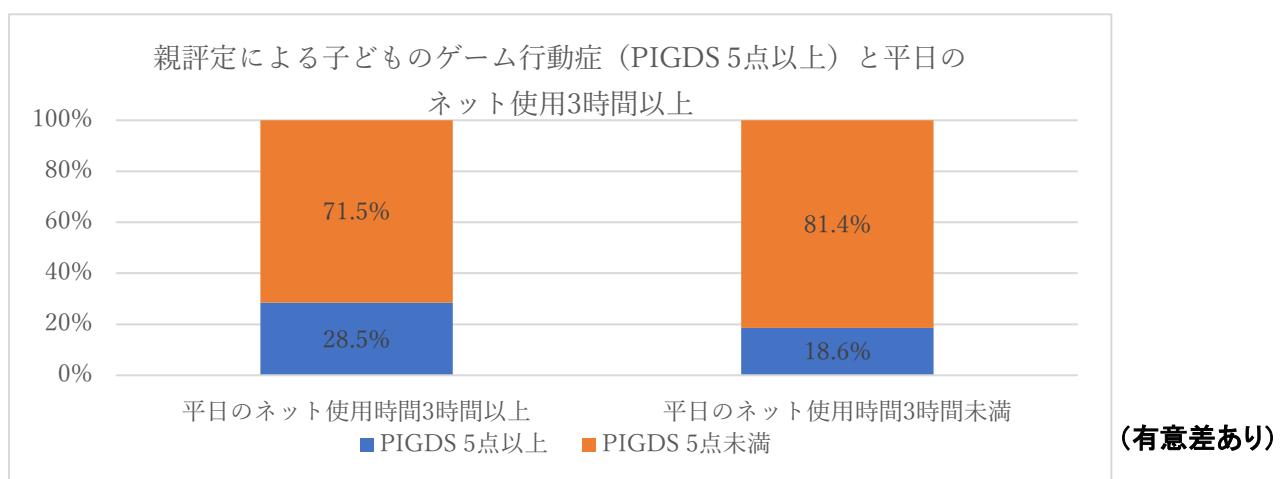
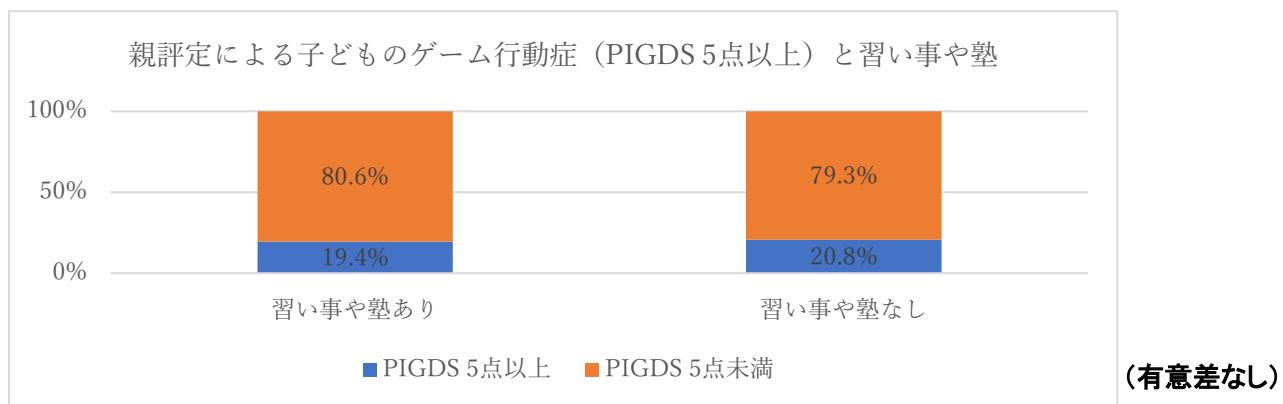
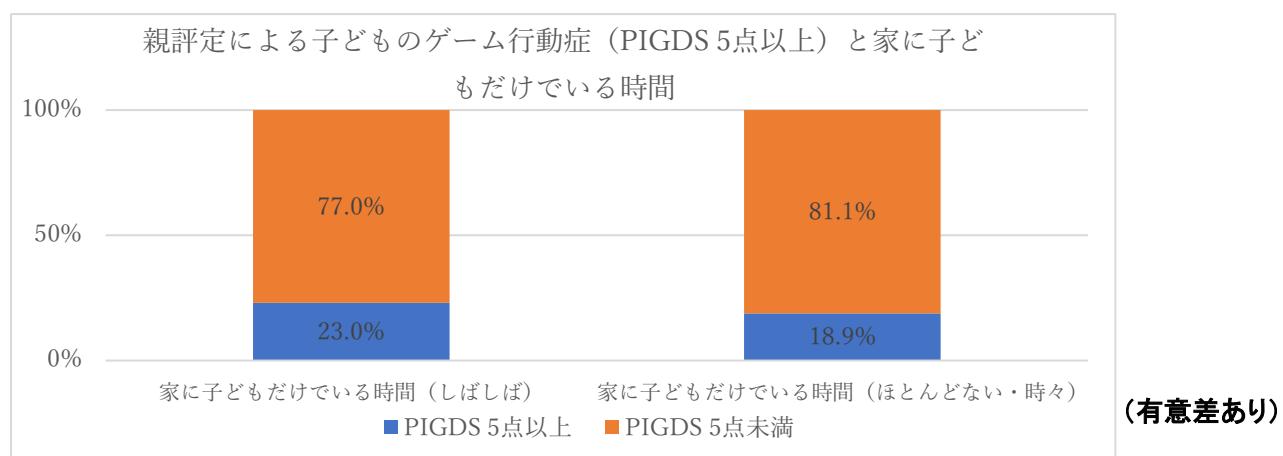


⇒親評定によるゲーム行動症の割合が多いのは小4～小6だが、平日のネット使用3時間以上の割合が多いのは小6以上である。幼少期・小学校低学年からのネット・ゲームの使い方に関する予防教育が重要である。

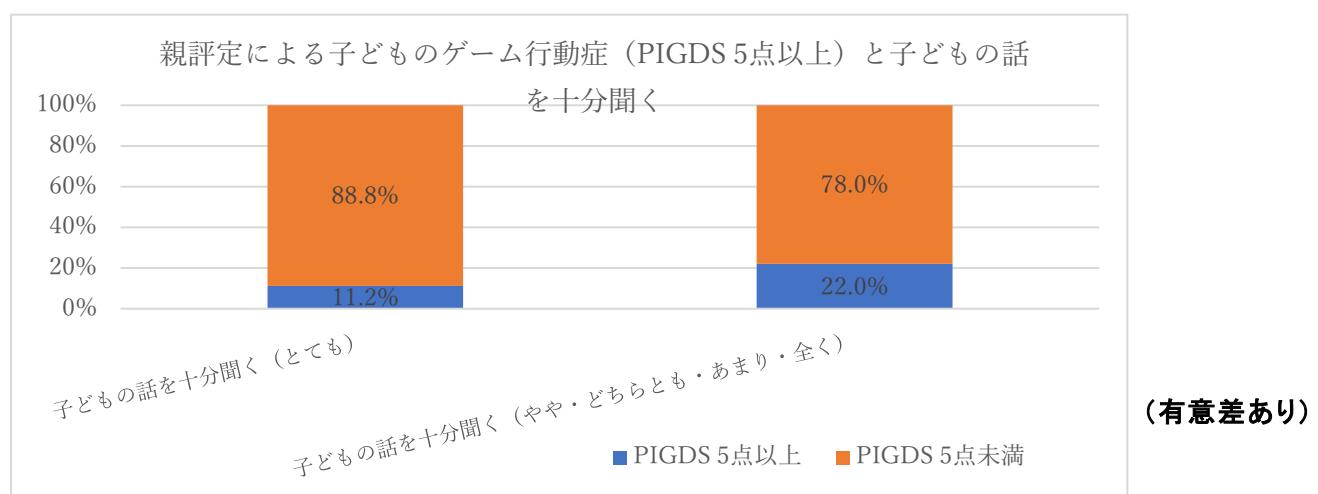
親評定による子どものゲーム行動症と要因になりうる変数との関連 (χ^2 乗検定)

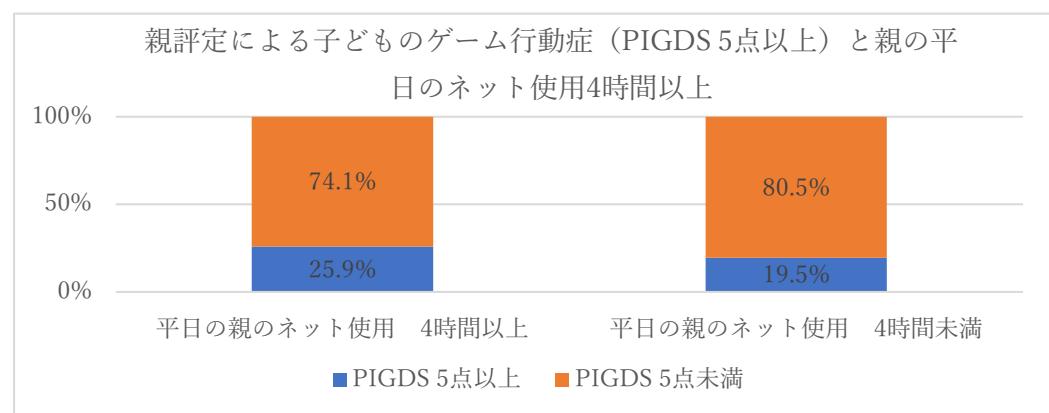
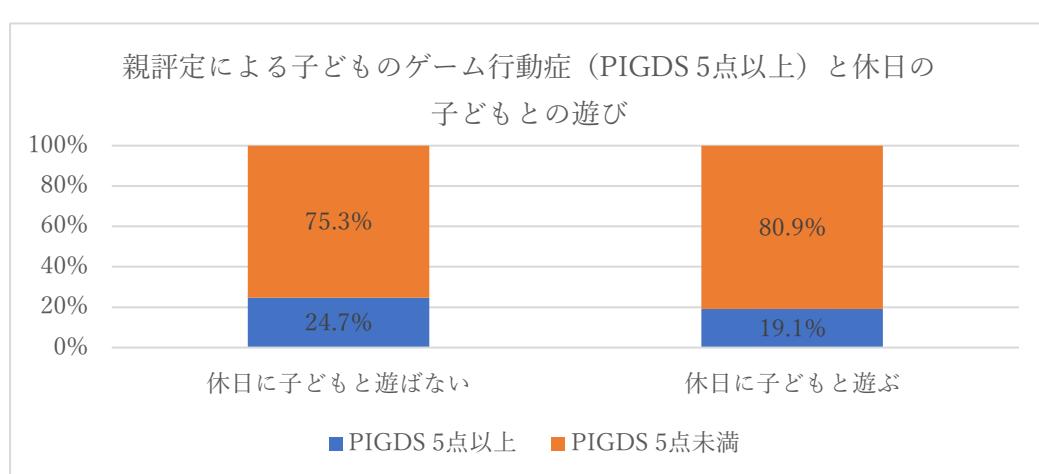
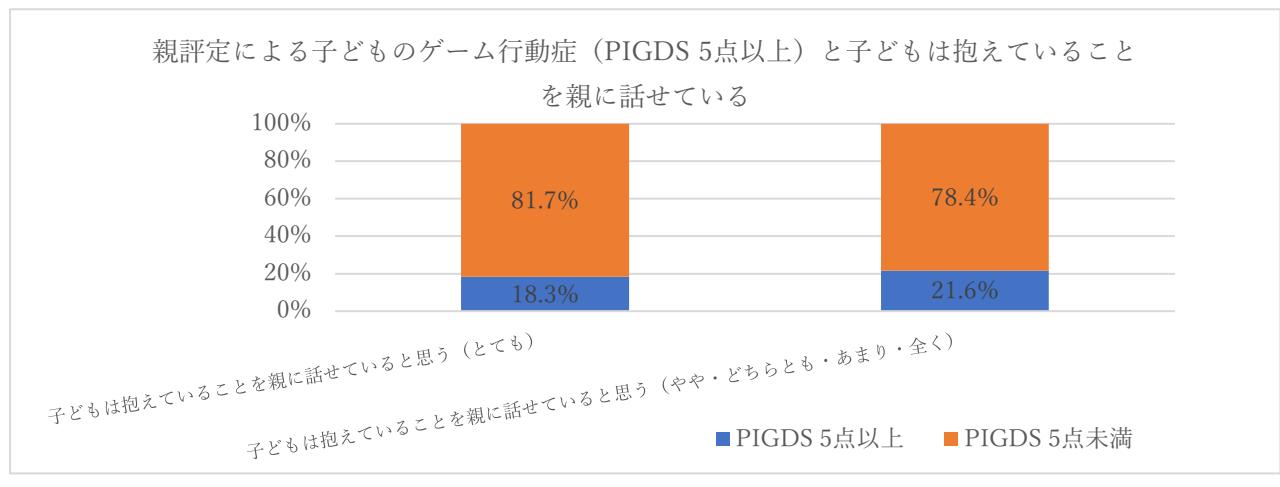
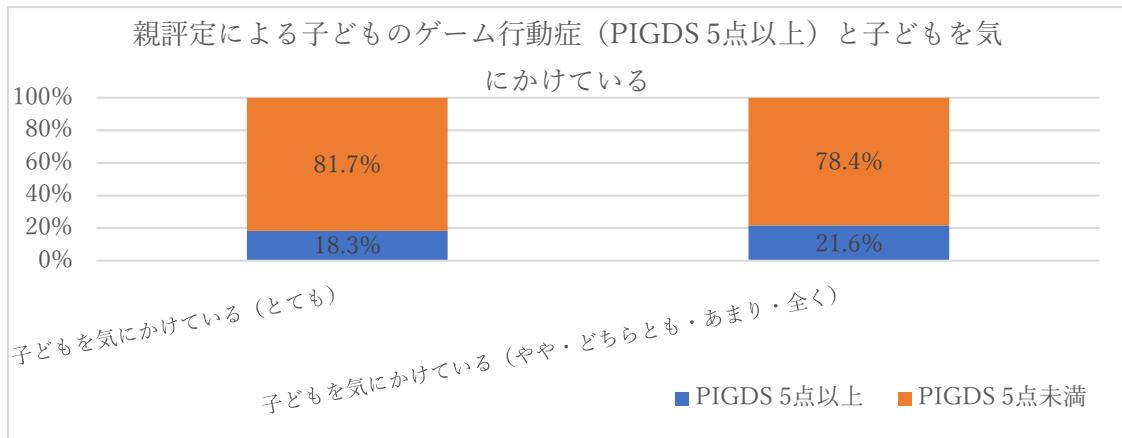


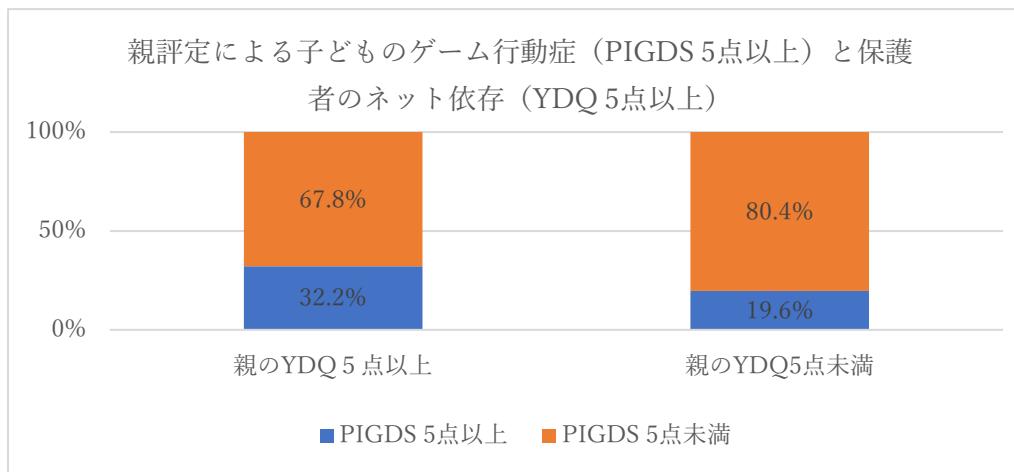
※家族構成(核家族・複合家族)とは有意差なし



※休日のネット使用 3 時間以上とも関連あり





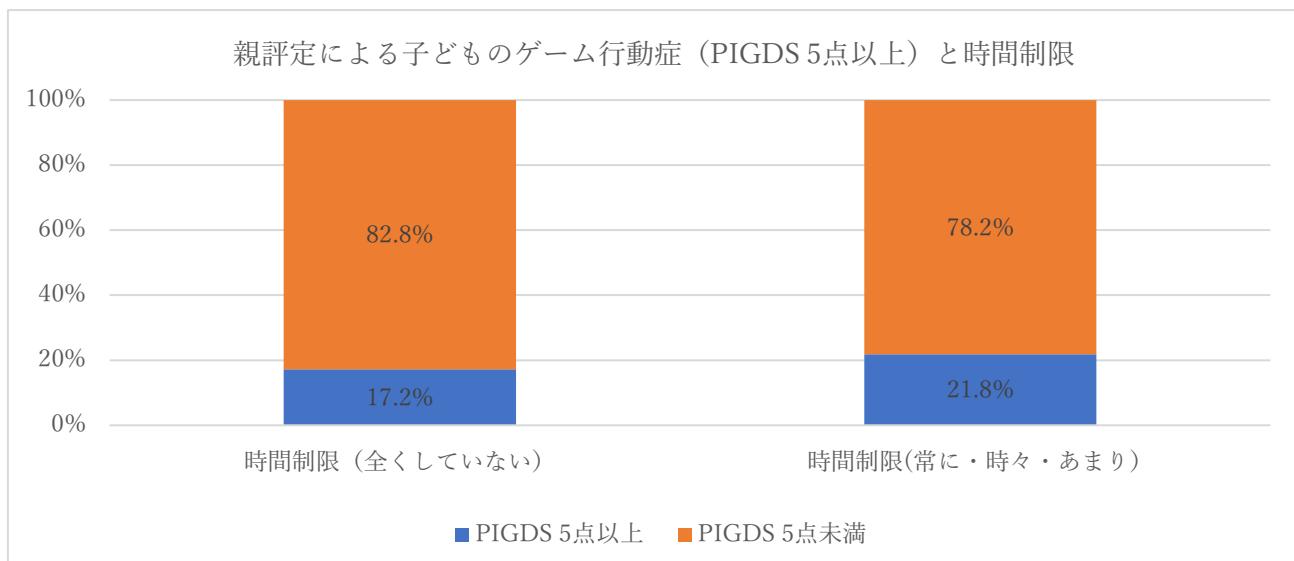


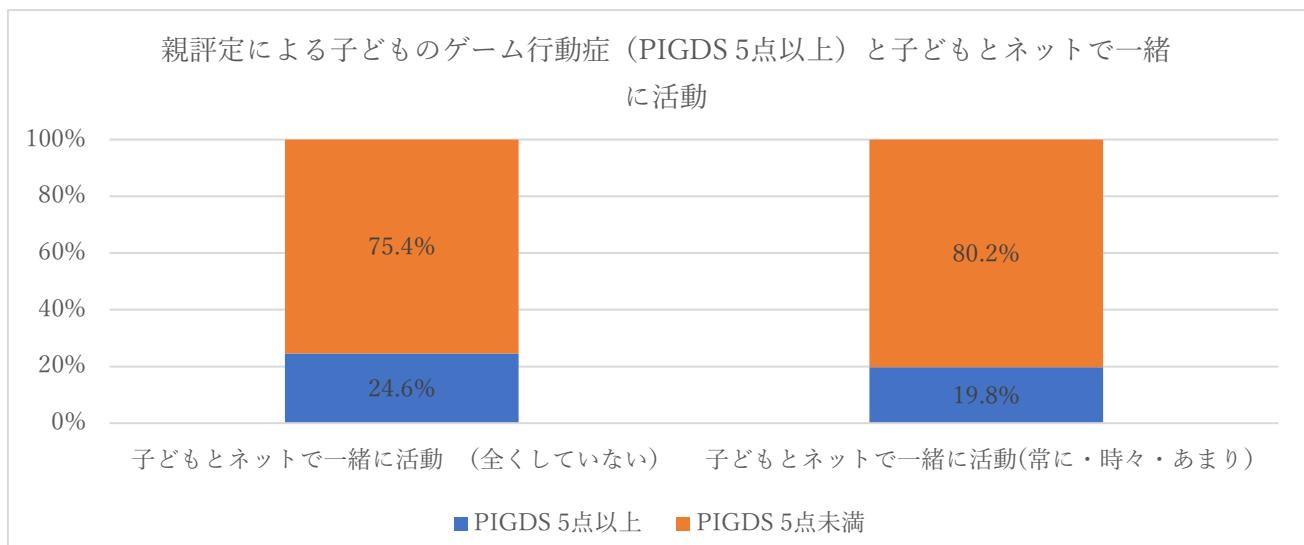
⇒男子、ネット使用時間とゲーム行動症との関連は先行研究と同様の結果である。兄・姉がない、子どもだけで家にいる時間があることとゲーム行動症との関連があったのは、監視の目がないことに加え、孤独とも関連している可能性がある。子どもの居場所づくり、仲間との交流、地域との交流が重要であると考える。地域の人材や社会資源を活用した対策の検討が必要である。

親のネット長時間使用およびネット依存とゲーム行動症との関連も、先行研究と同様の結果である。親自身にネットの付き合い方について見直していただく機会が必要である。

親子関係の課題や親子での遊び時間がないことと、ゲーム行動症との関連も示された。幼少期からの愛着形成や、子どもとの遊び方も含めた親育ての重要性が示唆される。

親評定による子どものゲーム行動症と親のメディアコントロールとの関連(χ^2 乗検定) 抜粋





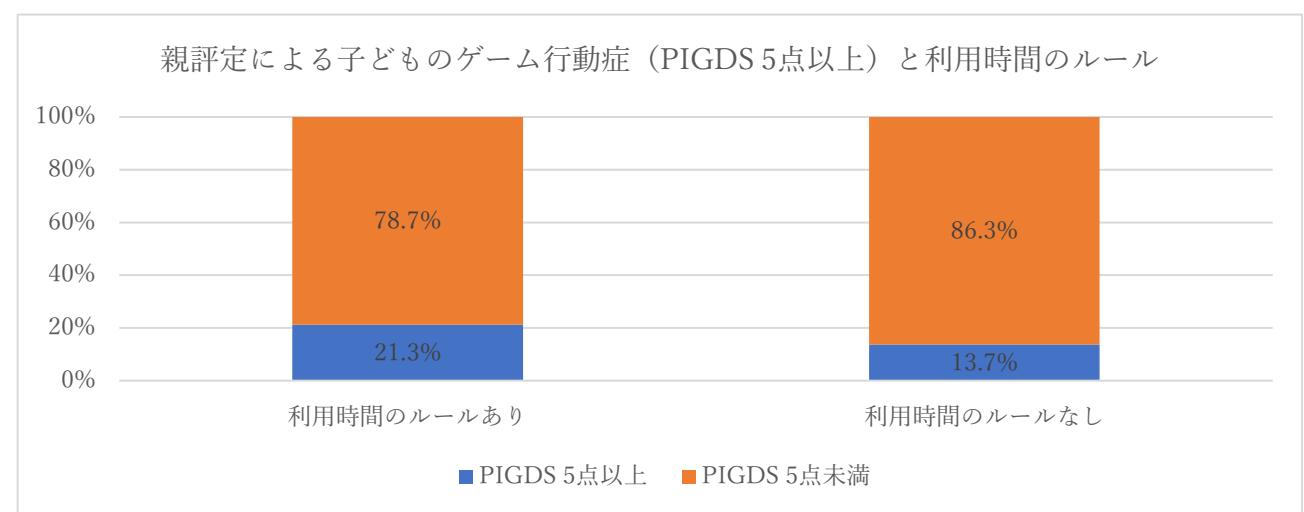
(有意差あり)

⇒親評定による子どものゲーム行動症と親のメディアコントロールとの関連については、「時間制限」と「子どもとネットで一緒に活動する」とだけ関連がみられた。

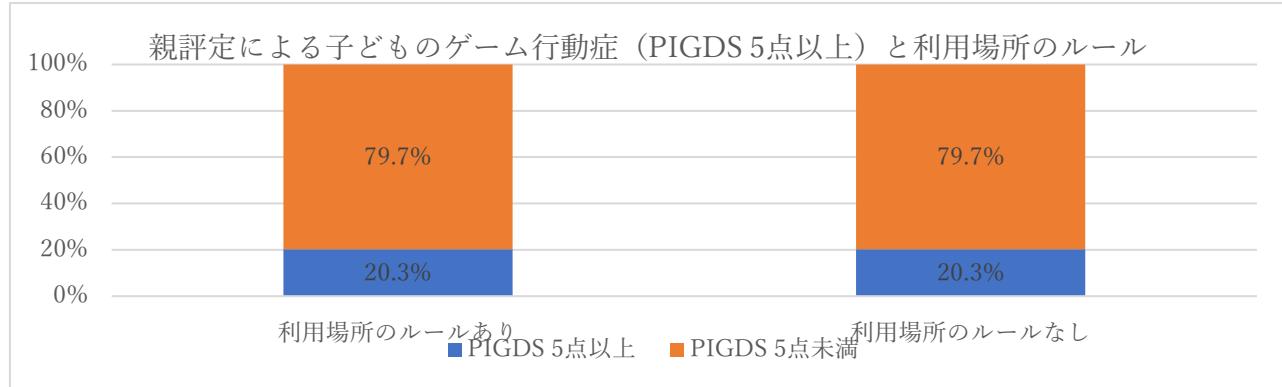
親が時間制限している方が、親評定による子どものゲーム行動症の割合が多いのは、ゲーム行動症の状態にある子どもに対して、時間制限という対処をする親が多い現状を示している可能性がある。もしくは、ゲーム行動症の状態の子どもは、親に時間制限されると反抗心が強まり、逆にゲーム行動症の状態を悪化させてしまう可能性がある。横断研究のため、因果関係については不明であるが、先行研究では、支配的な親の行為と子どものゲーム行動症との関連が示されているため、後者の可能性も否定できない。

親が子どもと一緒にネットで活動する方が子どものゲーム行動症の割合が少ないのは、親と楽しめている・親に見守られている安心感や、支持的・共感的な関わりが子どもに受け入れやすいためと考えられる。

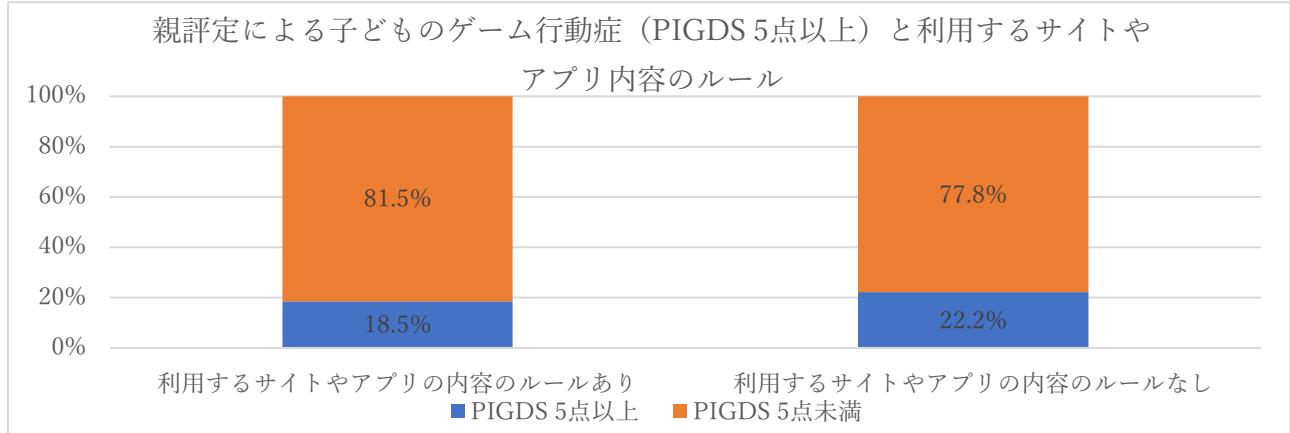
親評定による子どものゲーム行動症とルールとの関連(χ^2 乗検定) 抜粋



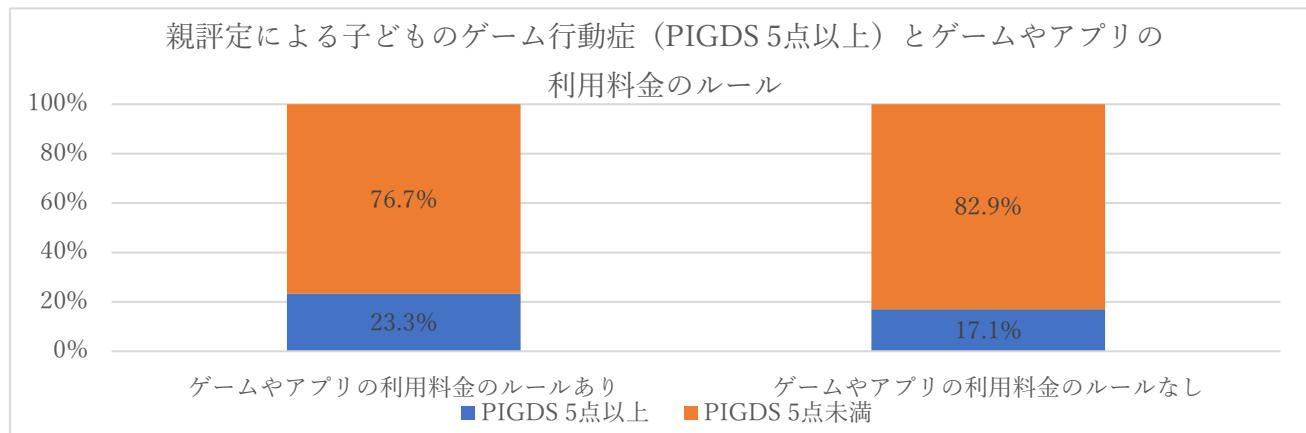
(有意差あり)



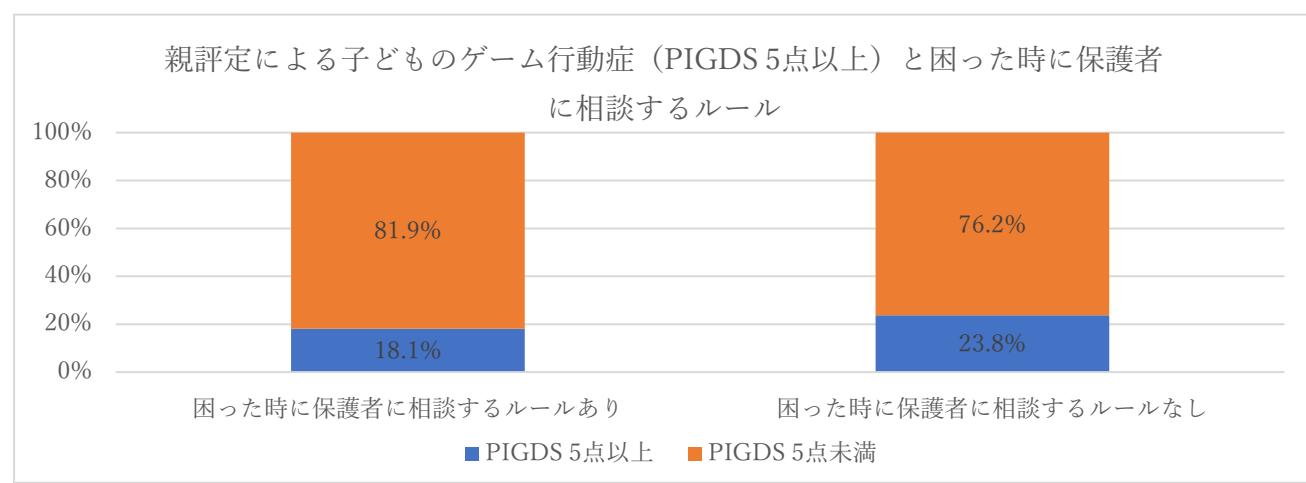
(有意差なし)



(有意差あり)



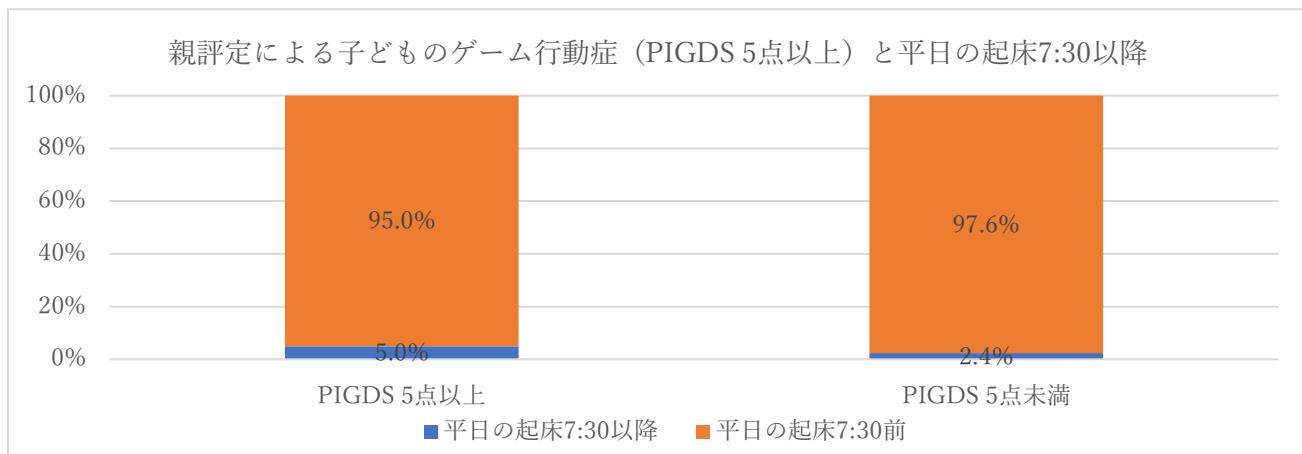
(有意差あり)



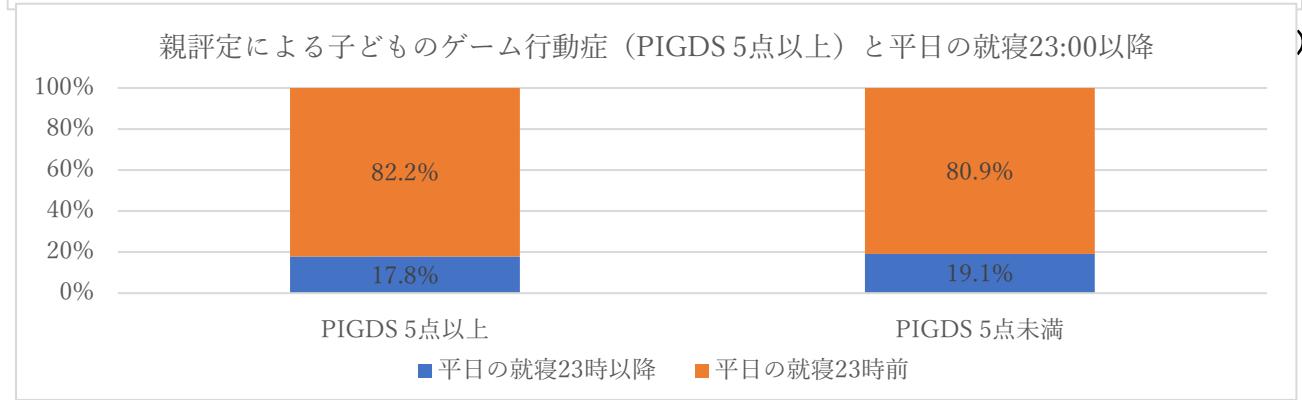
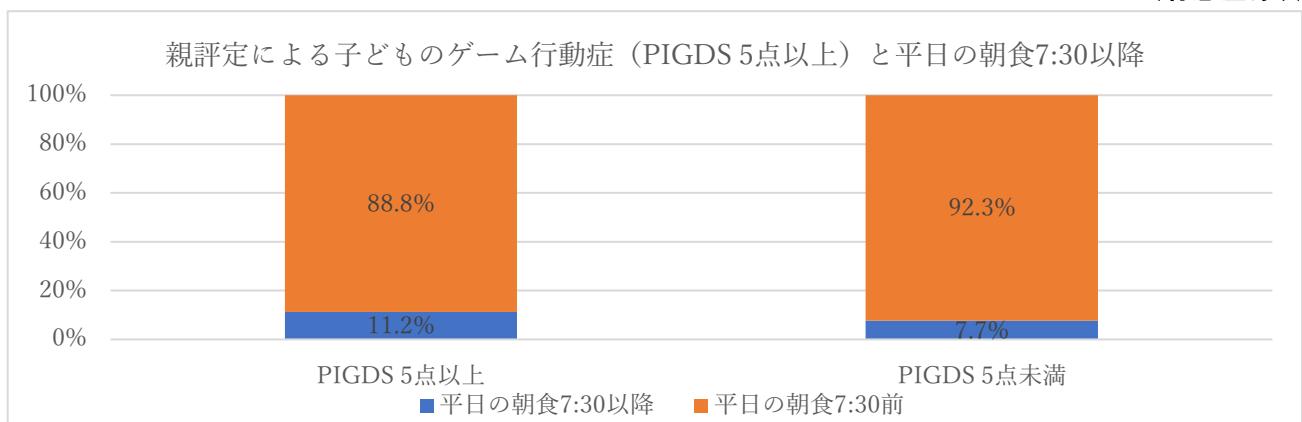
(有意差あり)

⇒時間のルール、利用料金のルールを除いては、ルールがあった方が、親評定による子どものゲーム行動症は少ない。横断研究のため、因果関係は分からぬが、子どもがゲーム行動症の状態になっているために、時間のルール、料金のルールを設定している可能性がある。親が一方的に行うメディアコントロールよりも、子どもと一緒にルールを決める方が有効である可能性がある。

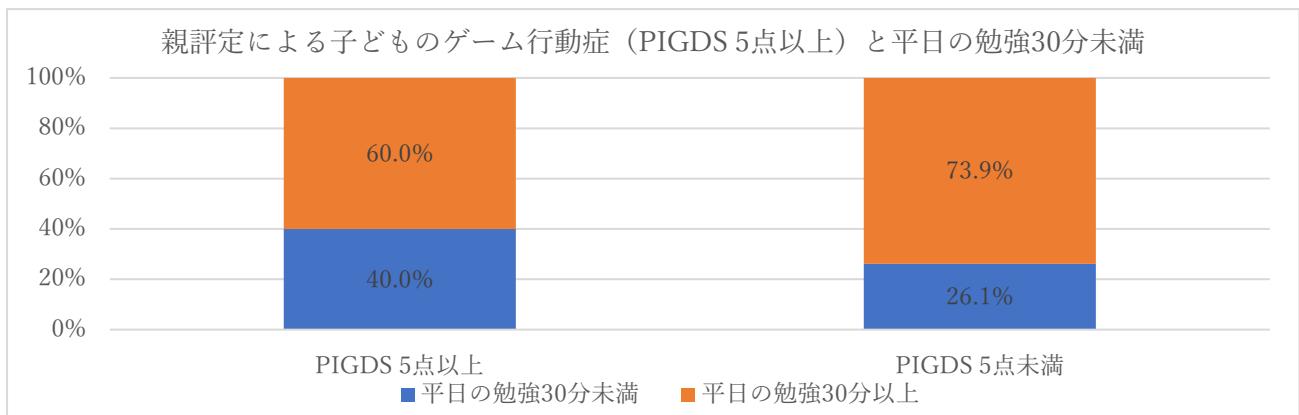
親評定による子どものゲーム行動症と影響になりうる変数との関連(χ^2 乗検定)



(有意差あり)

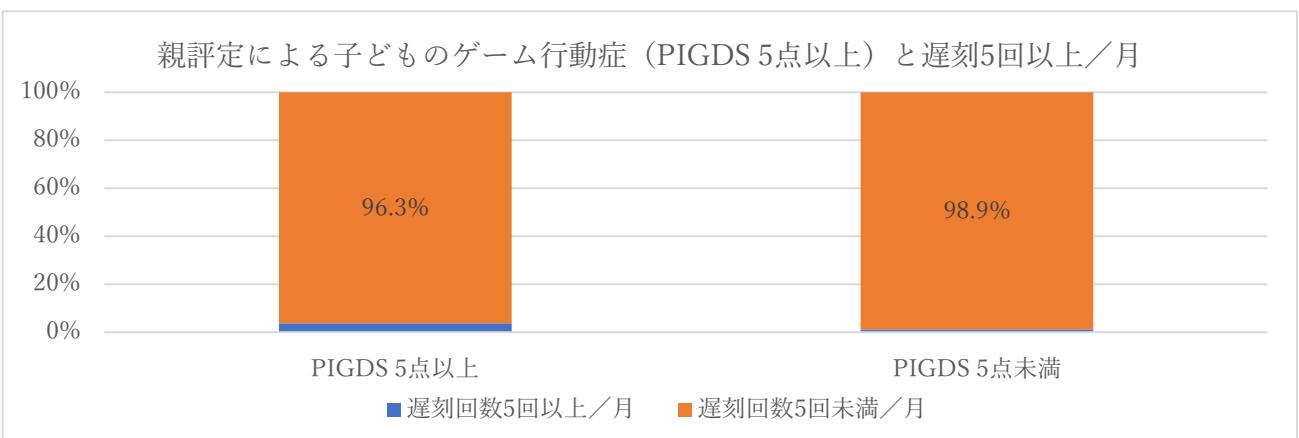


(有意差なし)



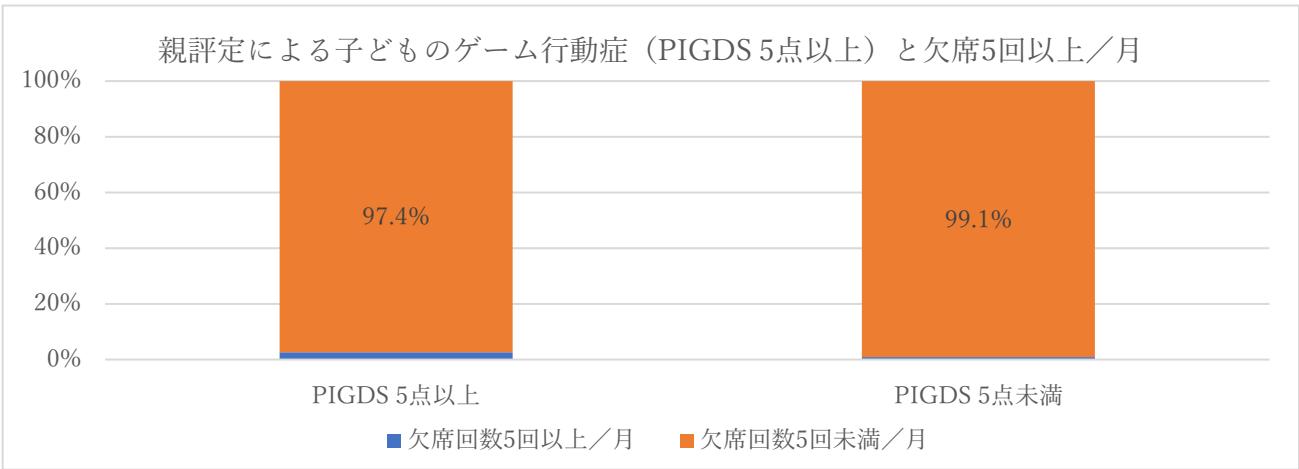
(有意差あり)

※休日に勉強しないこととも有意差あり



(有意差あり)

遅刻 1回以上／月、遅刻 3回以上／月とも有意差あり



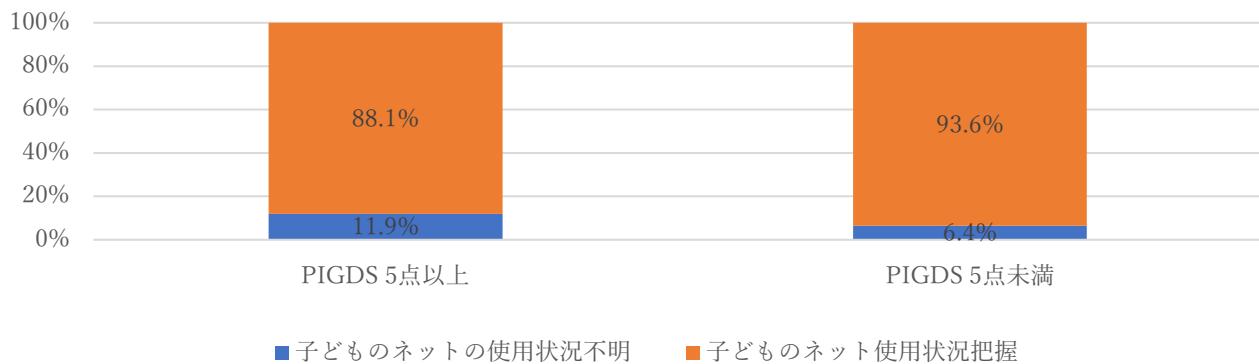
(有意差あり)

欠席 1回以上／月、欠席 3回以上／月とも有意差あり

⇒子どものゲーム行動症と起床時間や朝食時間の遅れ、学習しないこと、遅刻・欠席との関連があった。子どものゲーム行動症と就寝時間が遅いこととの関連はなかったが、質の低い睡眠になっている可能性もある。

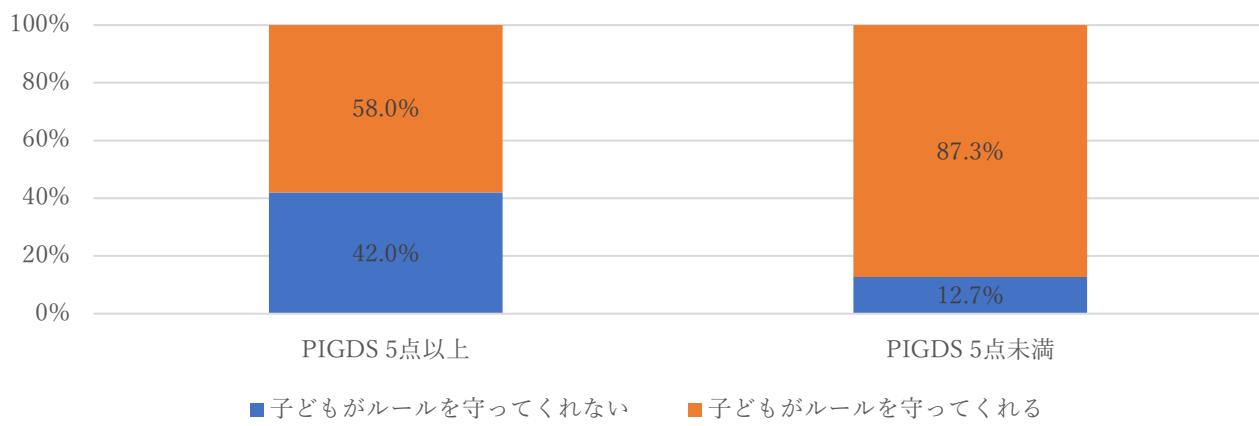
親評定による子どものゲーム行動症と困り事との関連(χ^2 乗検定) 抜粋

親評定による子どものゲーム行動症（PIGDS 5点以上）と子どものネット使用状況不明



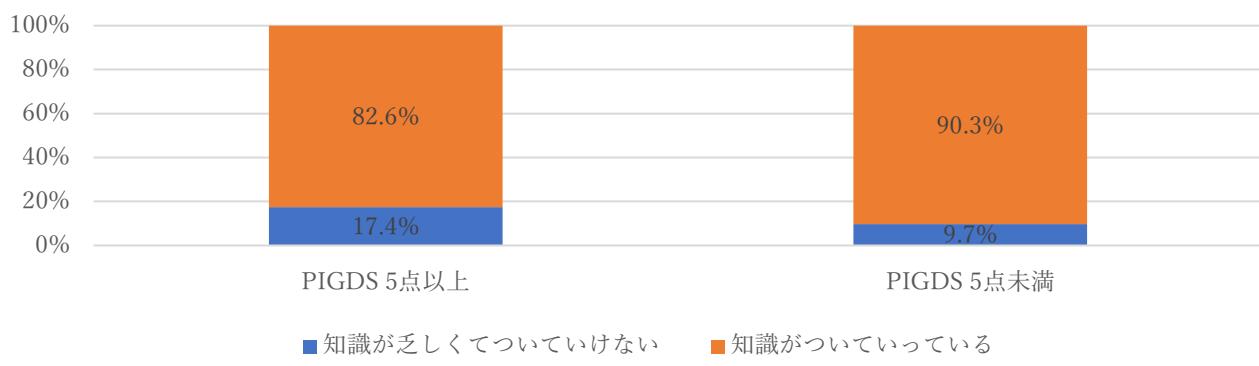
(有意差あり)

親評定による子どものゲーム行動症（PIGDS 5点以上）と子どもがルールを守ってくれない

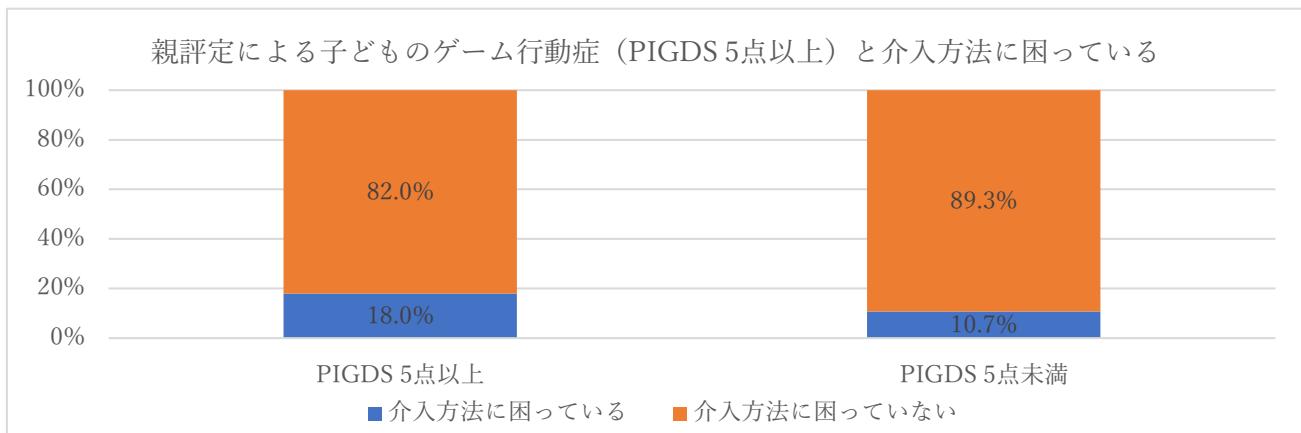


(有意差あり)

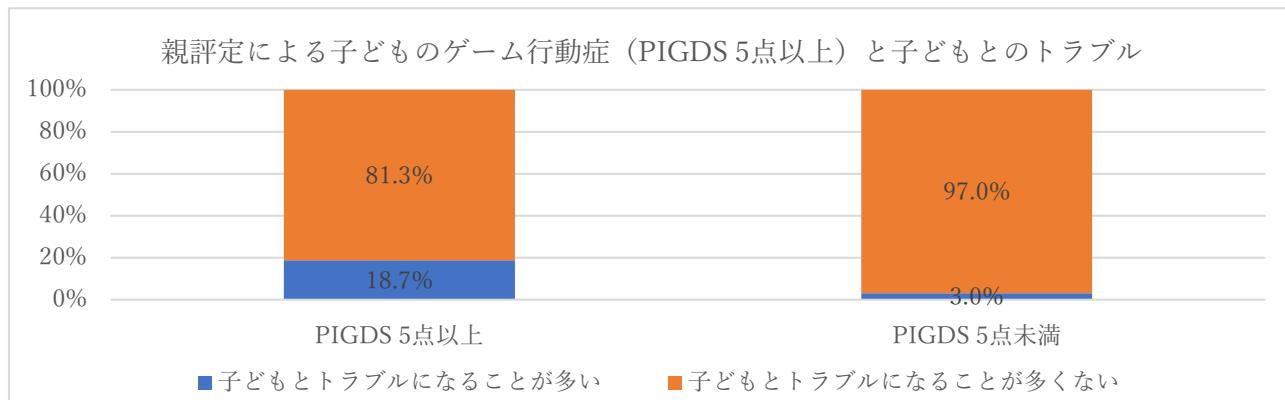
親評定による子どものゲーム行動症（PIGDS 5点以上）と知識が乏しくてついていけない



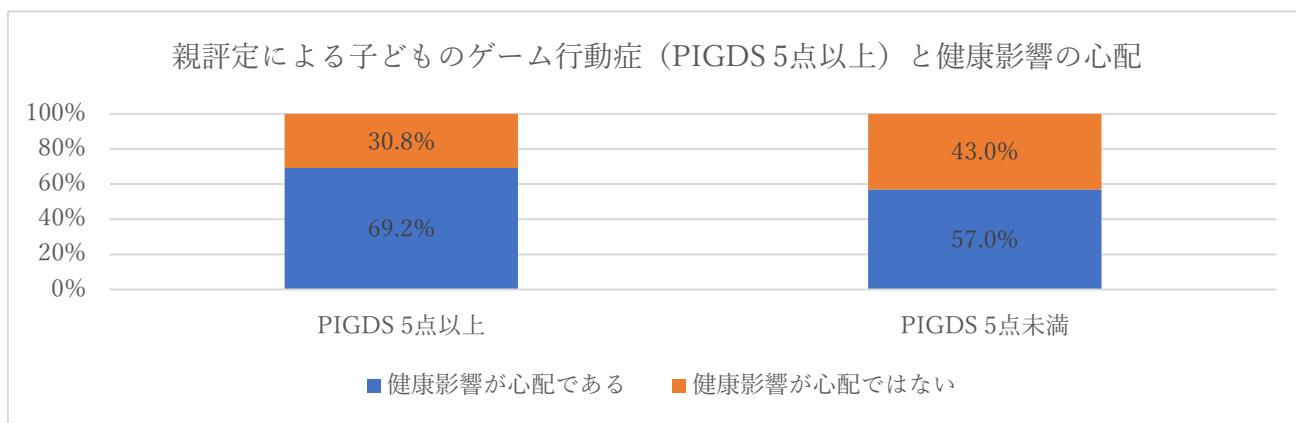
(有意差あり)



(有意差あり)



(有意差あり)

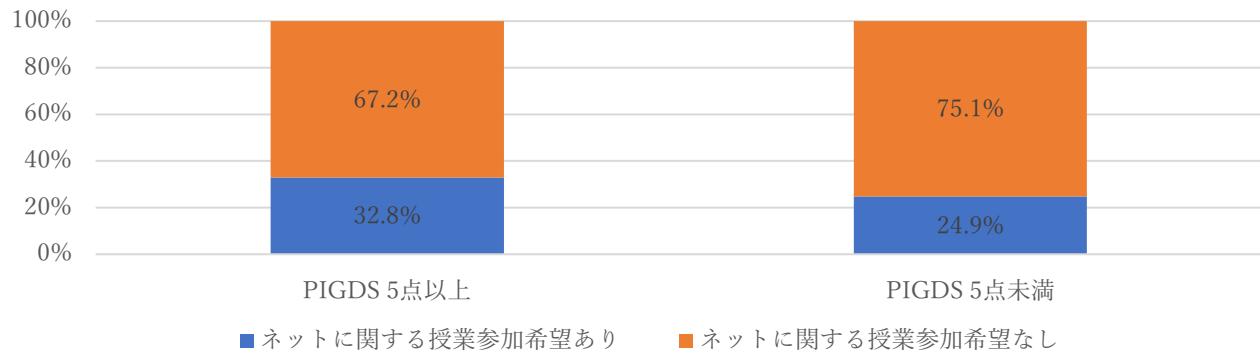


(有意差あり)

⇒子どもがゲーム行動症だと評定している親は、そうでない親と比べて、多くの項目において困り感があることが分かる。ゲーム行動症の状態にある子どもと親に対するハイリスクアプローチの検討が必要である。

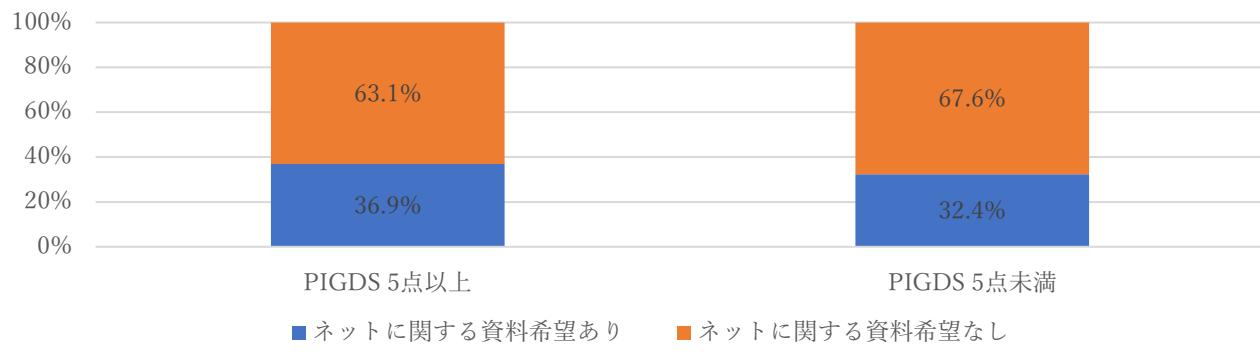
親評定による子どものゲーム行動症と学校に求めることとの関連(χ²乗検定)

親評定からみた子どものゲーム行動症（PIGDS 5点以上）と保護者の適切なネット使用に関する授業参加希望



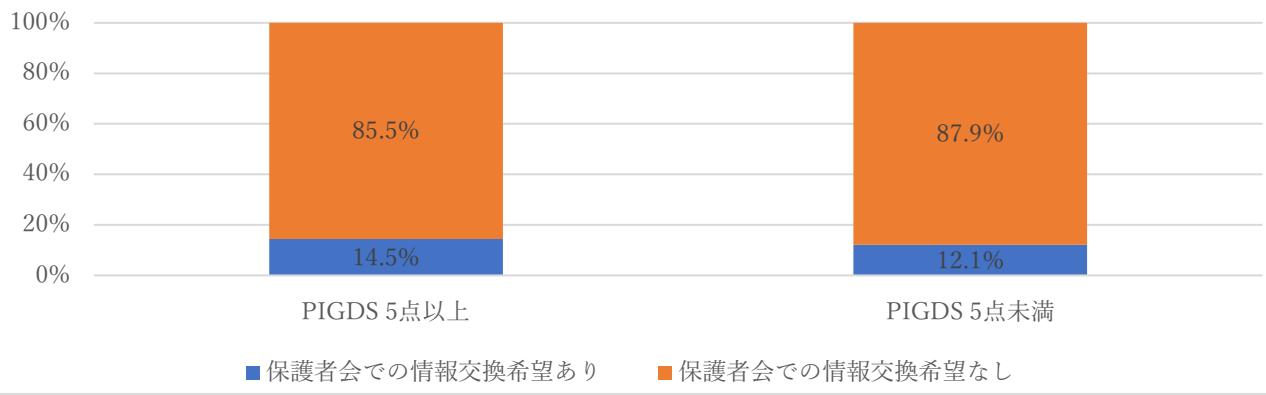
(有意差あり)

親評定による子どものゲーム行動症（PIGDS 5点以上）とネットに関する資料希望

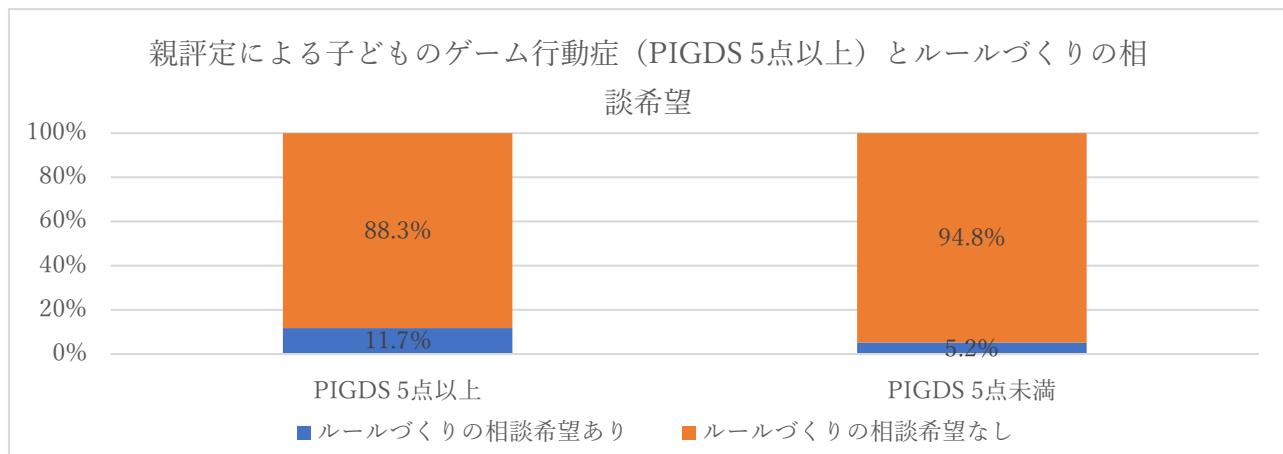


(有意差あり)

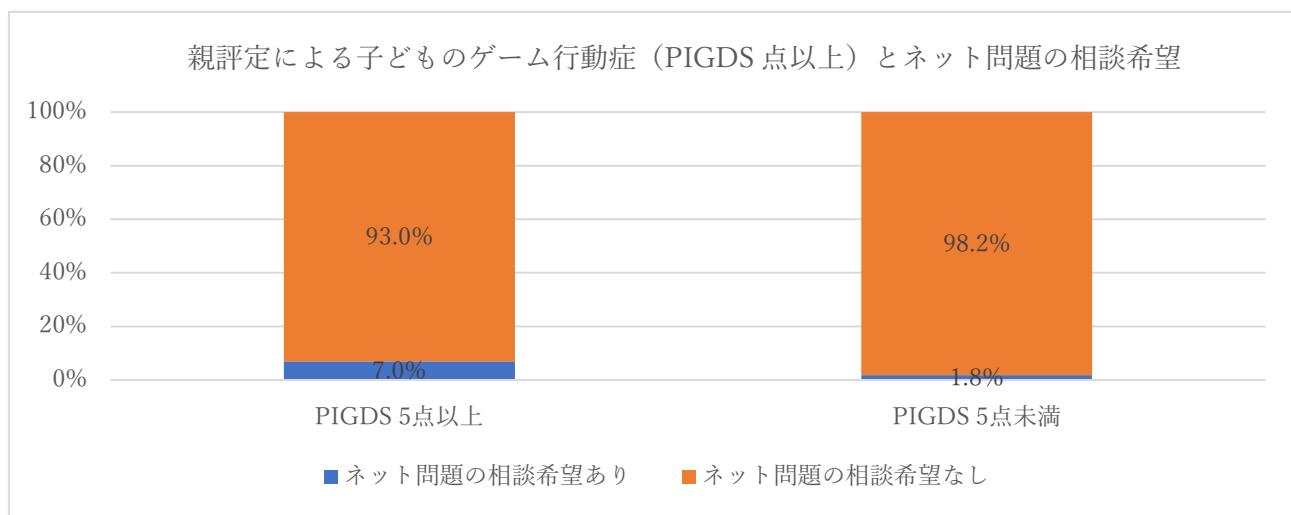
親評定による子どものゲーム行動症（PIGDS 5点以上）と保護者会での情報交換希望



(有意差なし)



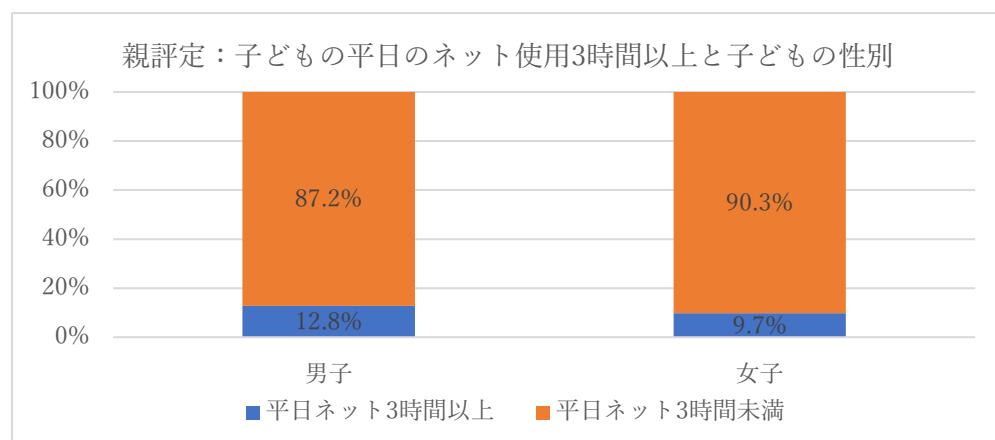
(有意差あり)



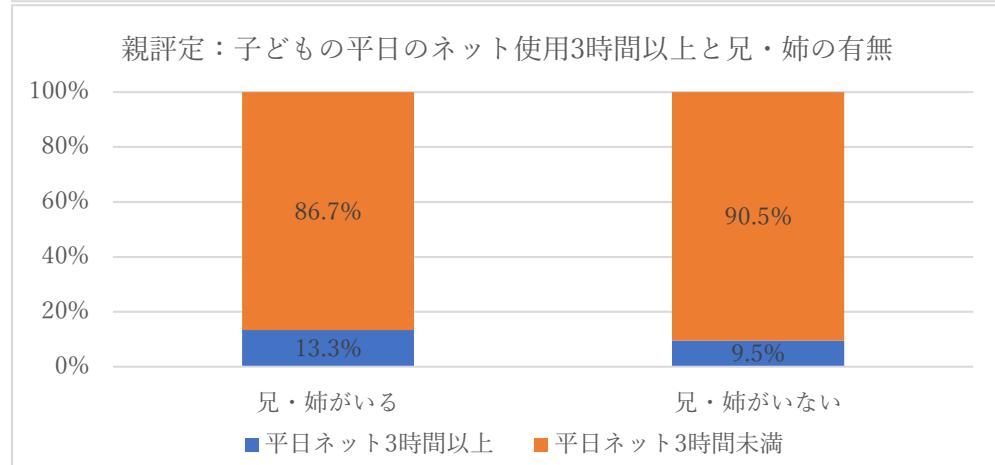
(有意差あり)

⇒子どもがゲーム行動症であると評定した親は、そうでない親に比べて、多くの項目において、学校からの支援を求めており、親からみてゲーム行動症の状態にある子ども(その家族)に対しては、個別性の高い支援が求められることが想定される。保護会での情報交換の場の提供では問題解決は難しく、個別に子どもとの関わり方について相談に対応する仕組みが必要である。学校の対応だけでは困難であることも想定されるため、ゲーム行動症が疑われる子どもとその家族に、どのような支援体制が組めるのか検討が必要である。

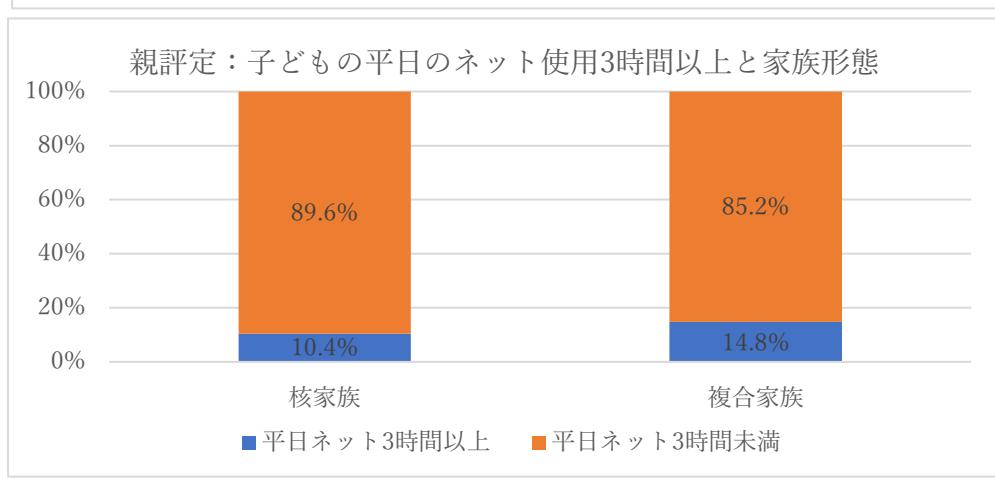
親評定による子どもの平日のネット使用3時間以上と要因になりうる変数との関連(χ²乗検定)



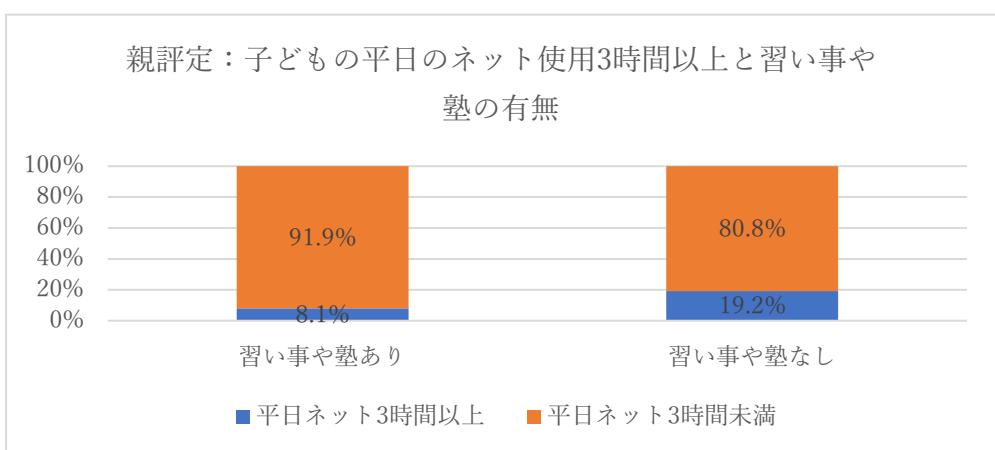
(有意差あり)



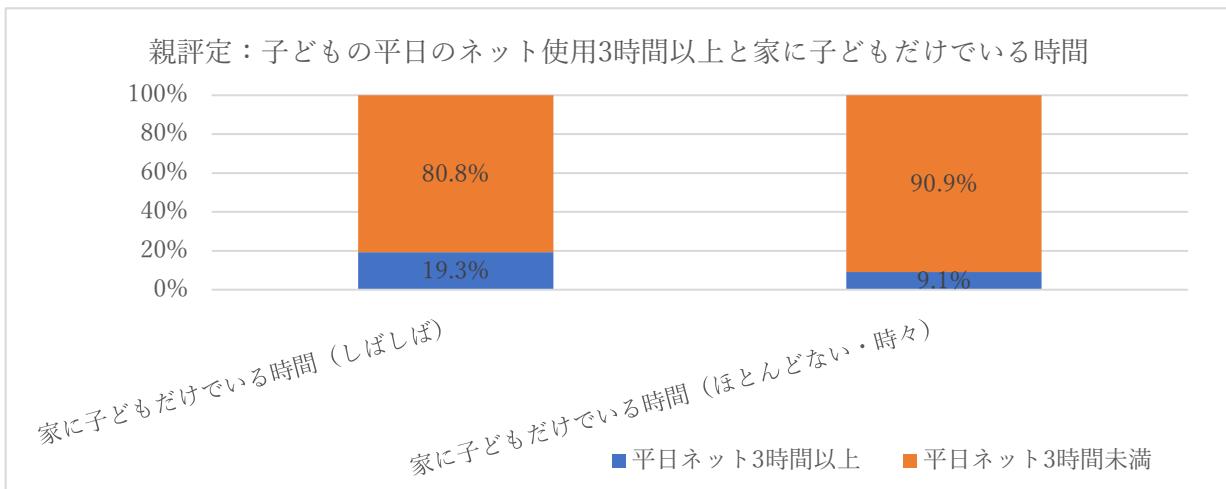
(有意差あり)



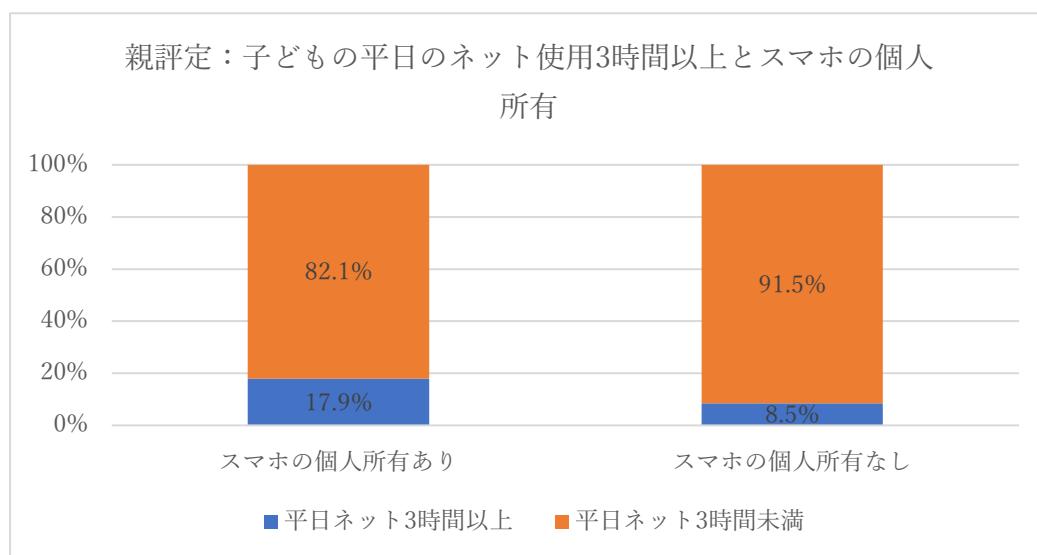
(有意差あり)



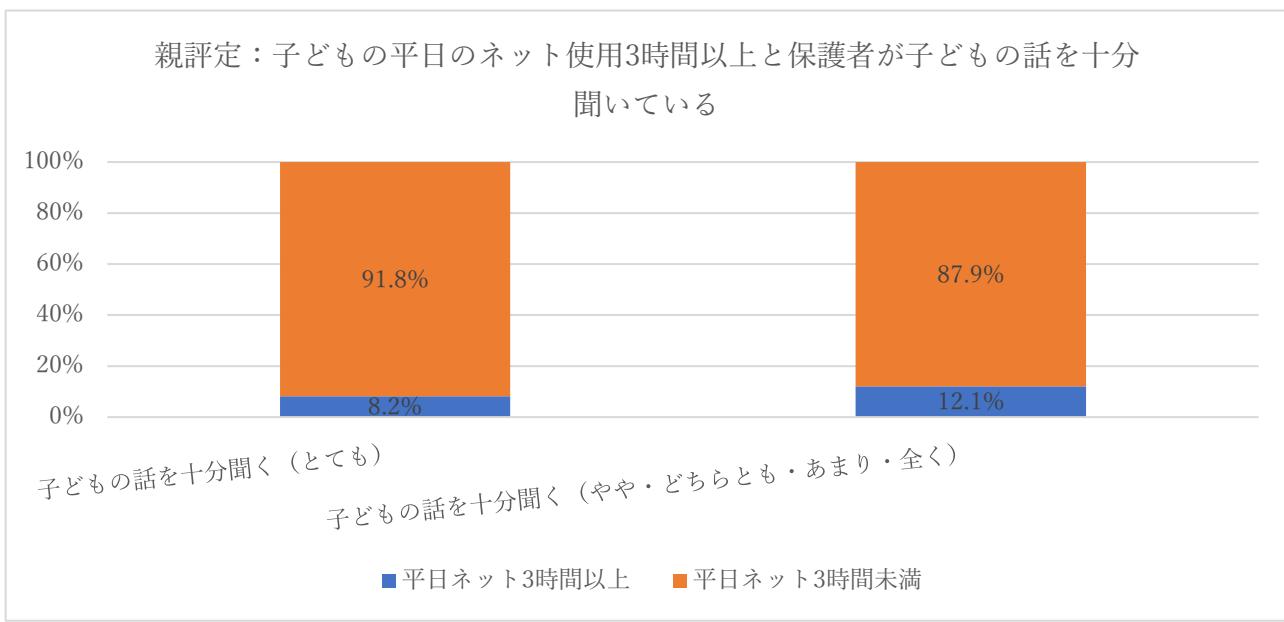
(有意差あり)



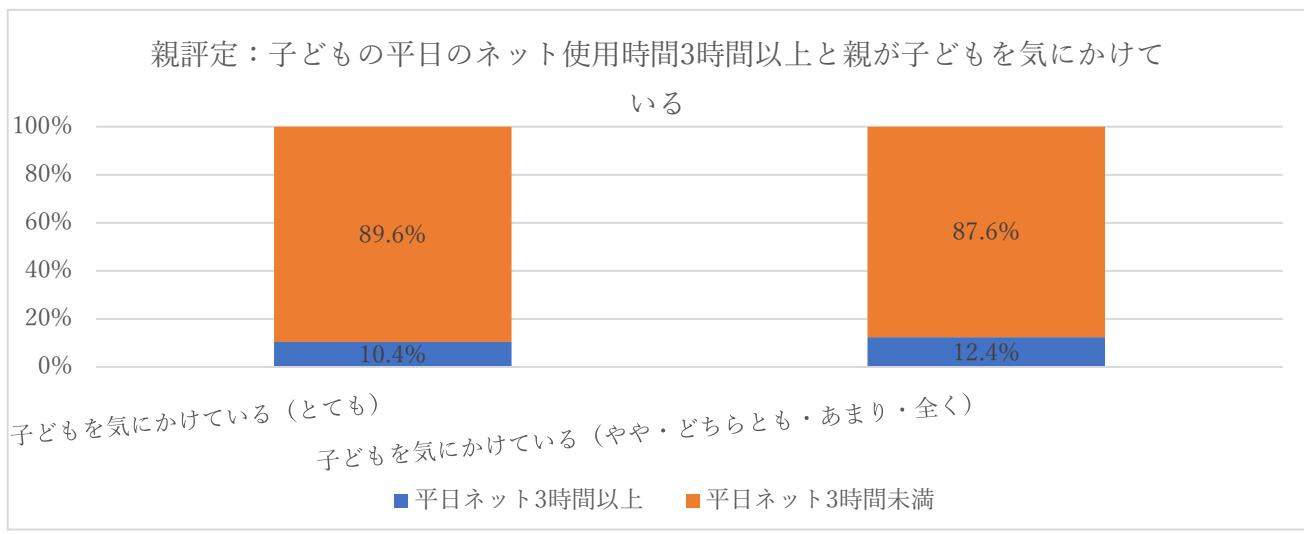
(有意差あり)



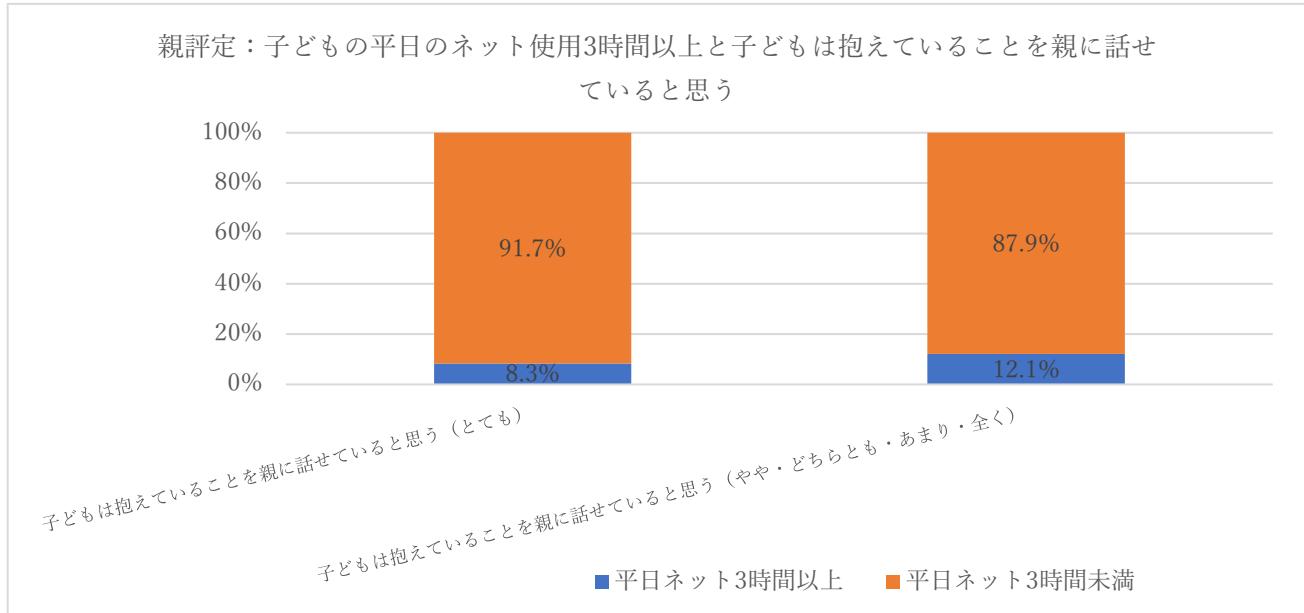
(有意差あり)



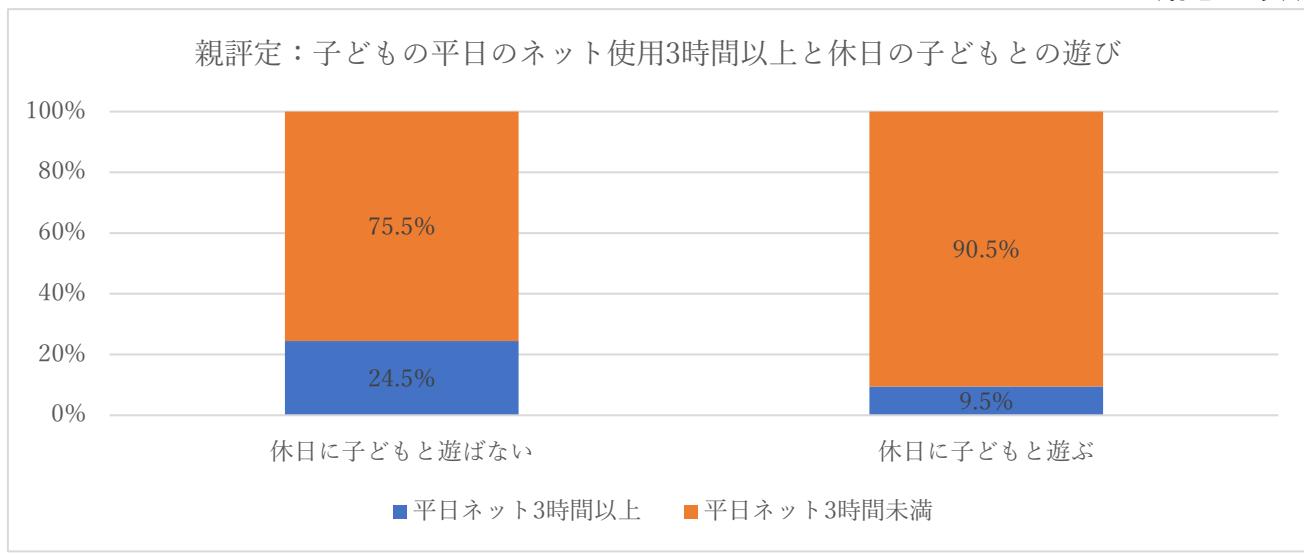
(有意差あり)



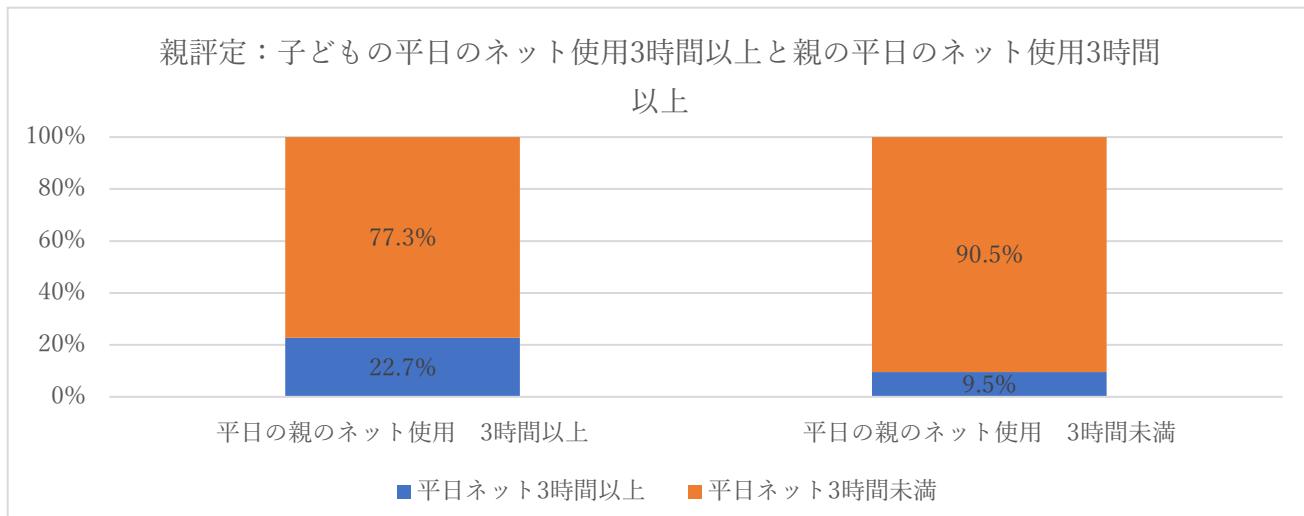
(有意差あり)



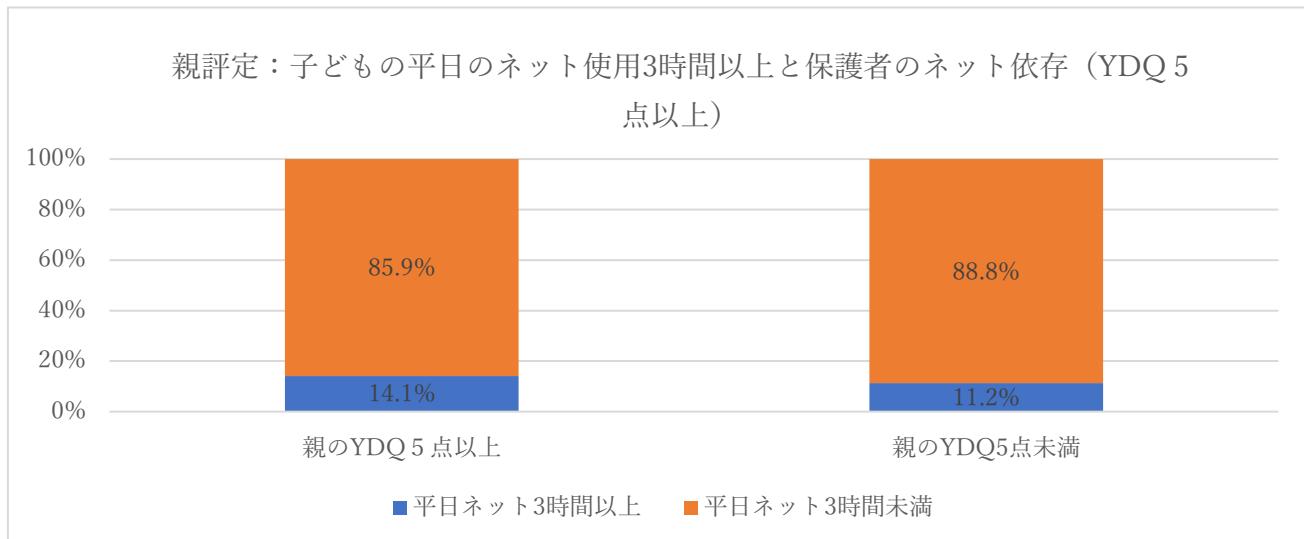
(有意差あり)



(有意差あり)



(有意差あり)



(有意差なし)

※保護者の YDQ4 点以上とは有意差あり

⇒男子、兄・姉あり、複合家族、家に子どもだけでいることがしばしば、塾や習いごとなし、スマホの個人所有、親子関係の課題、親子での休日の遊びがない、親がネット依存・ネット長時間使用の場合、親評定による子どもの平日のネット使用 3 時間以上の割合が多い。

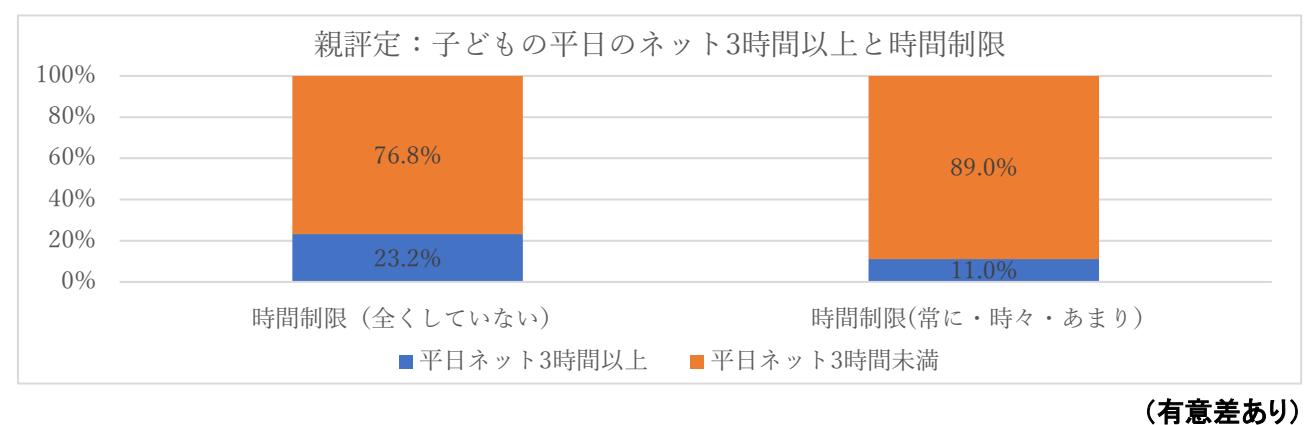
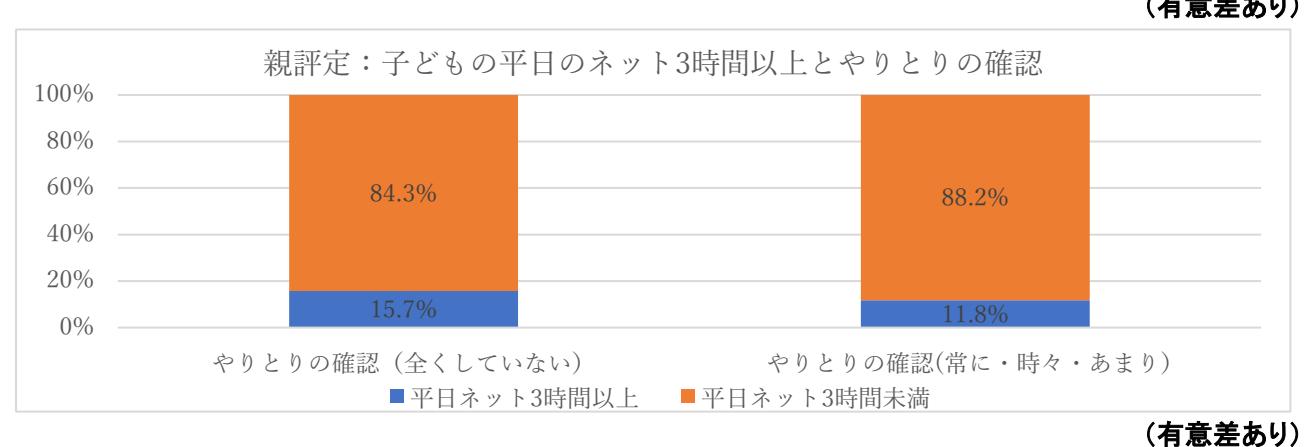
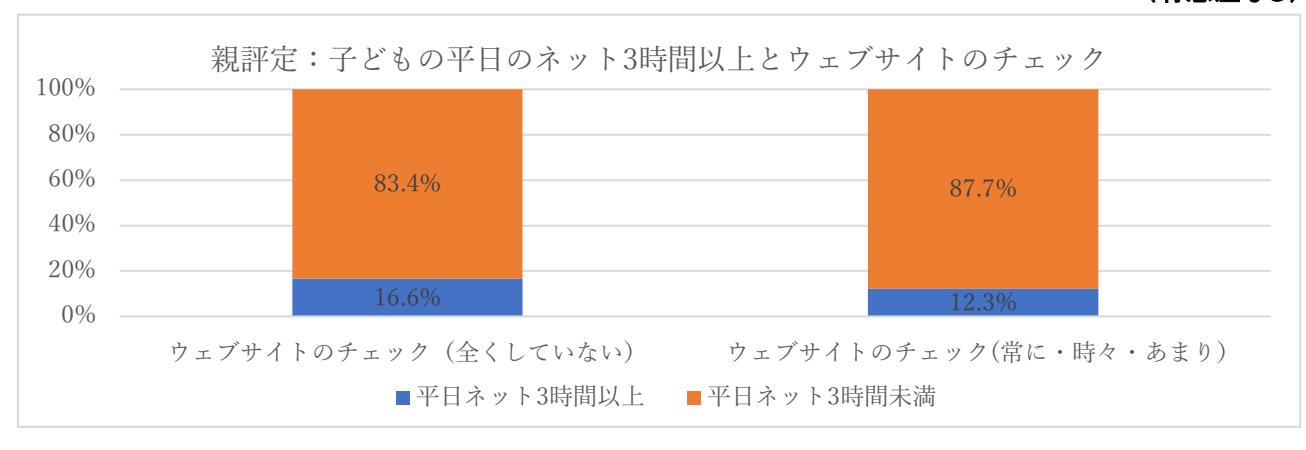
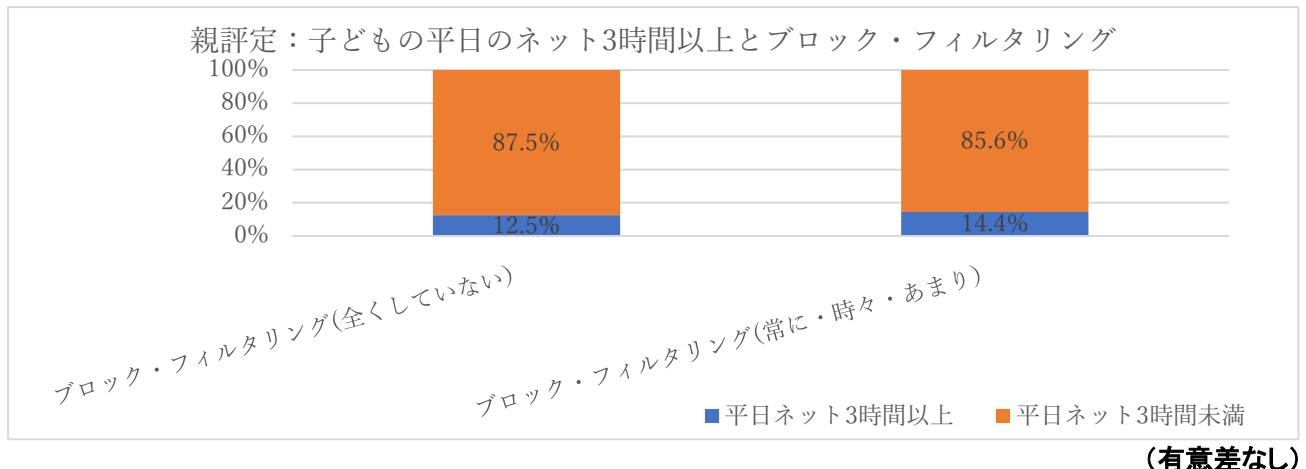
ゲーム行動症とネット使用 3 時間以上では、背景に多少の違いがある。例えば、ゲーム行動症の場合は、兄・姉がいない方が割合が高いが、ネット使用 3 時間以上の場合は兄・姉がいる方が割合が高い。ゲーム行動症は孤独が背景にある可能性、ネットの長時間使用は周囲の影響を受けやすい可能性がある。

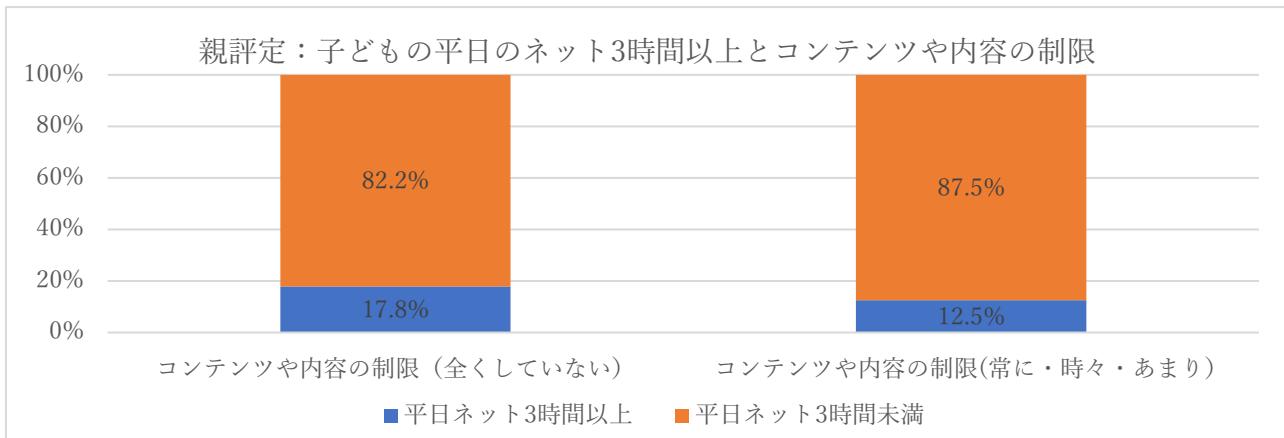
親子関係の課題や親のネット使用の課題への対策について、親への啓発や親支援、乳幼児期からの愛着形成が必要である。

塾や習いごとがなく、家に子どもだけでいる背景がある子どものための居場所づくりや、活動・交流の機会の提供が求められる。

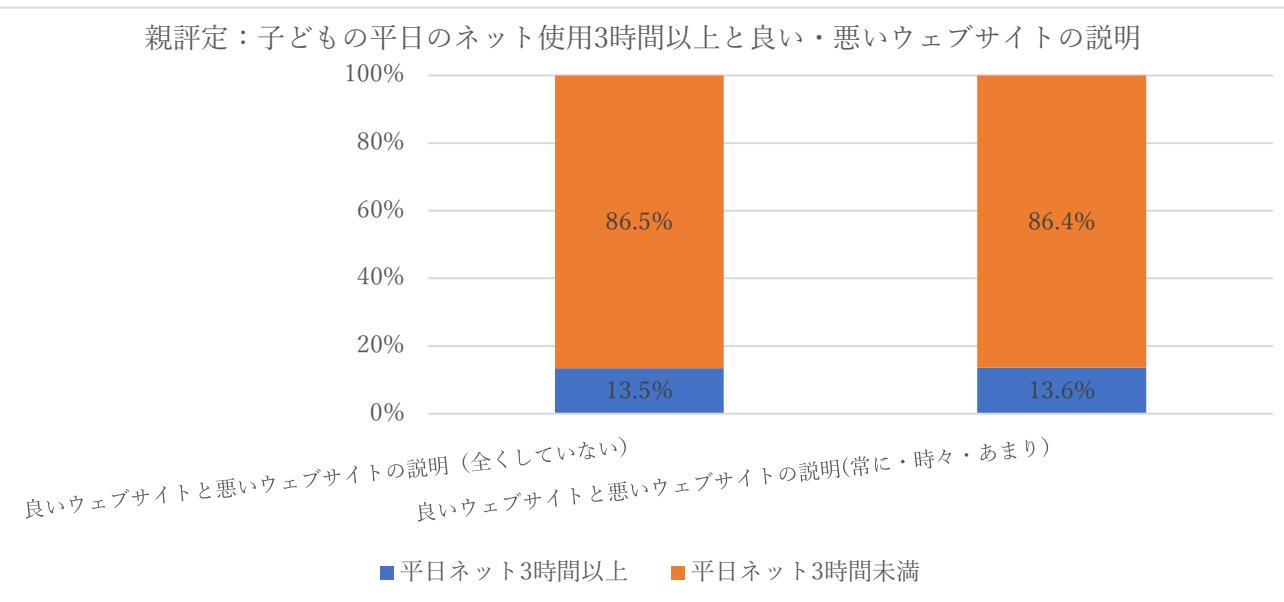
家庭の事情もあるが、スマホを個人所有させる適切な時期について考える必要がある。

親評定による子どもの平日のネット使用 3 時間以上と親のメディアコントロールとの関連(χ^2 乗検定)

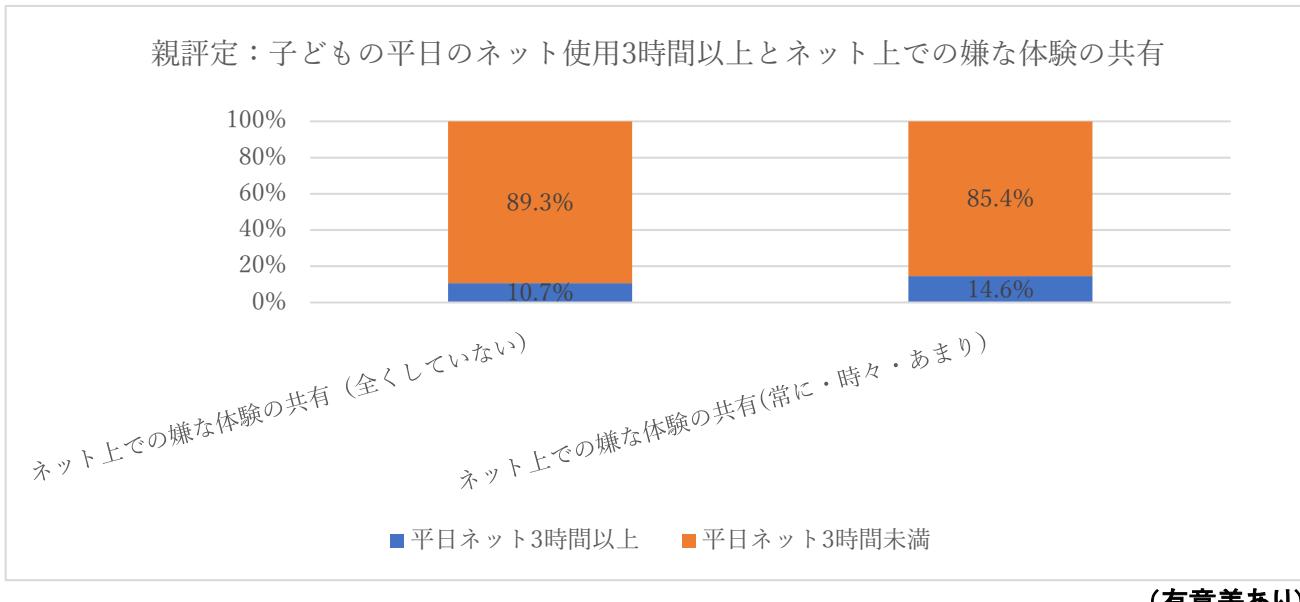




(有意差あり)

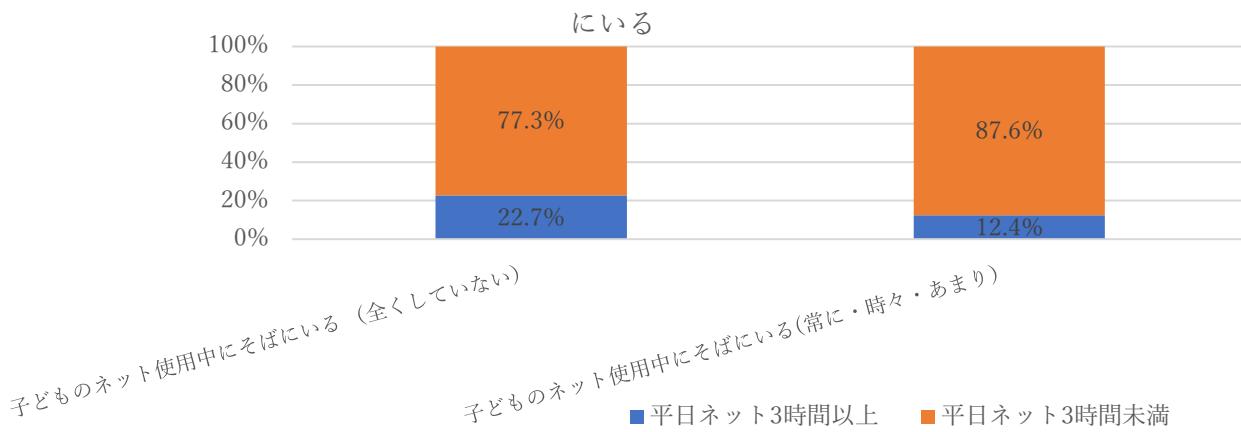


(有意差なし)



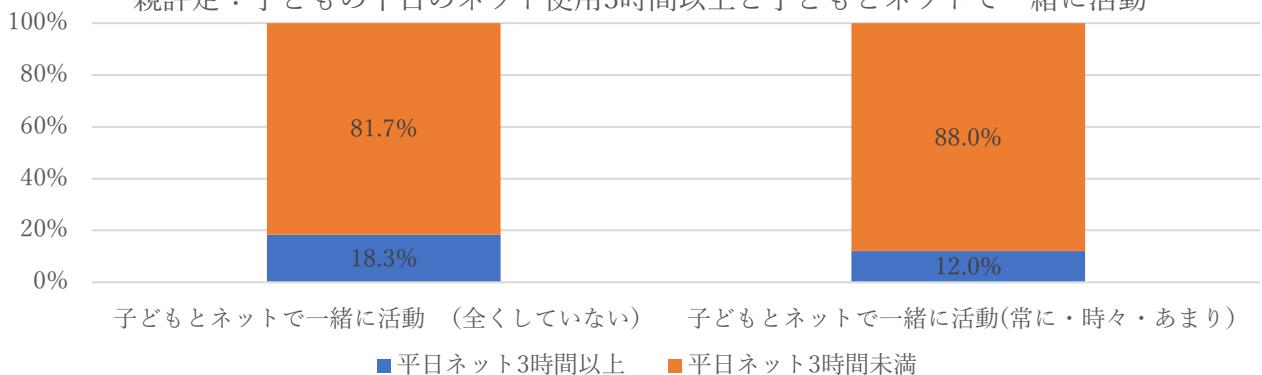
(有意差あり)

親評定：子どもの平日のネット使用3時間以上と子どものネット使用中にそばにいる



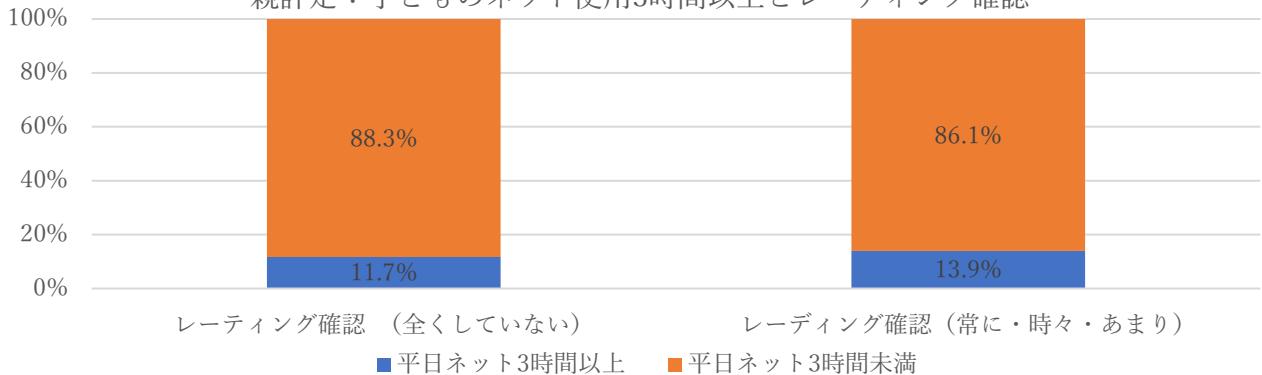
(有意差あり)

親評定：子どもの平日のネット使用3時間以上と子どもとネットで一緒に活動



(有意差あり)

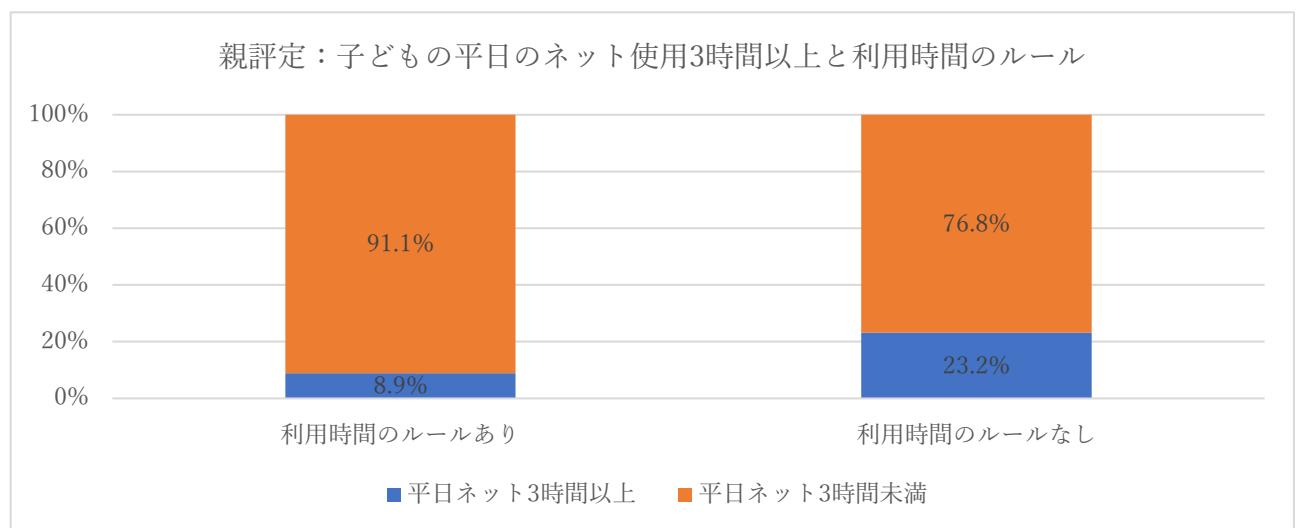
親評定：子どものネット使用3時間以上とレーディング確認



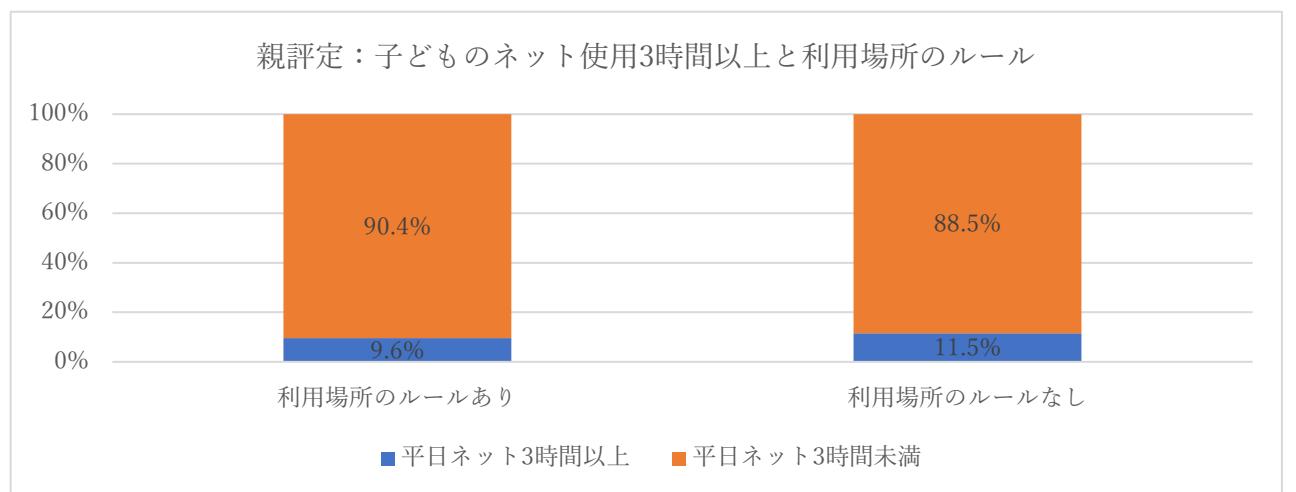
(有意差なし)

⇒ウェブサイトのチェック、やりとりの確認、時間制限、コンテンツの内容制限、ネット使用中にそばにいる、ネットで一緒に活動することを「全くしていない」場合は、「常にしている・時々している・あまりしていない」に比べて、子どもの平日のネット使用3時間以上の割合が高い。逆に、ネット上での嫌な体験の共有やレーディング確認は「常にしている・時々している・あまりしていない」の方が、「全くしていない」よりも子どもの平日のネット使用3時間以上の割合が高い。ネット上での嫌な体験の共有や、レーディング確認は、ネット長時間使用の状態にある子どもへの対応として行われている可能性がある。ネット長時間使用を予防するためには、親の見守りが有效であると示唆された。

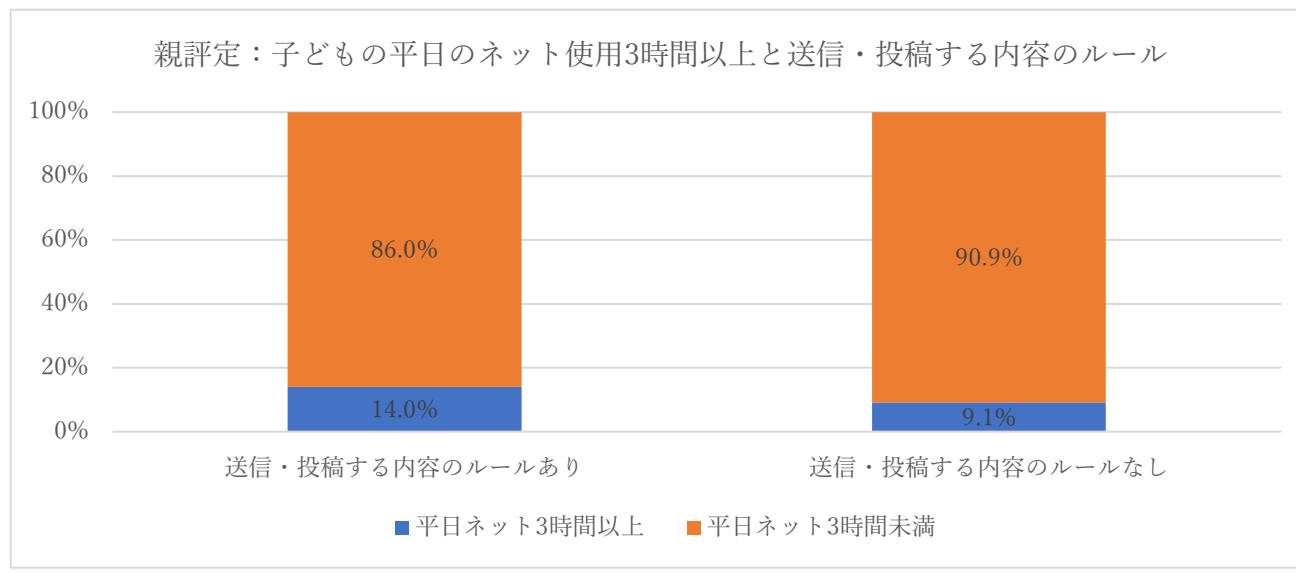
親評定による子どもの平日のネット使用3時間以上とルールとの関連(χ^2 乗検定) 抜粋



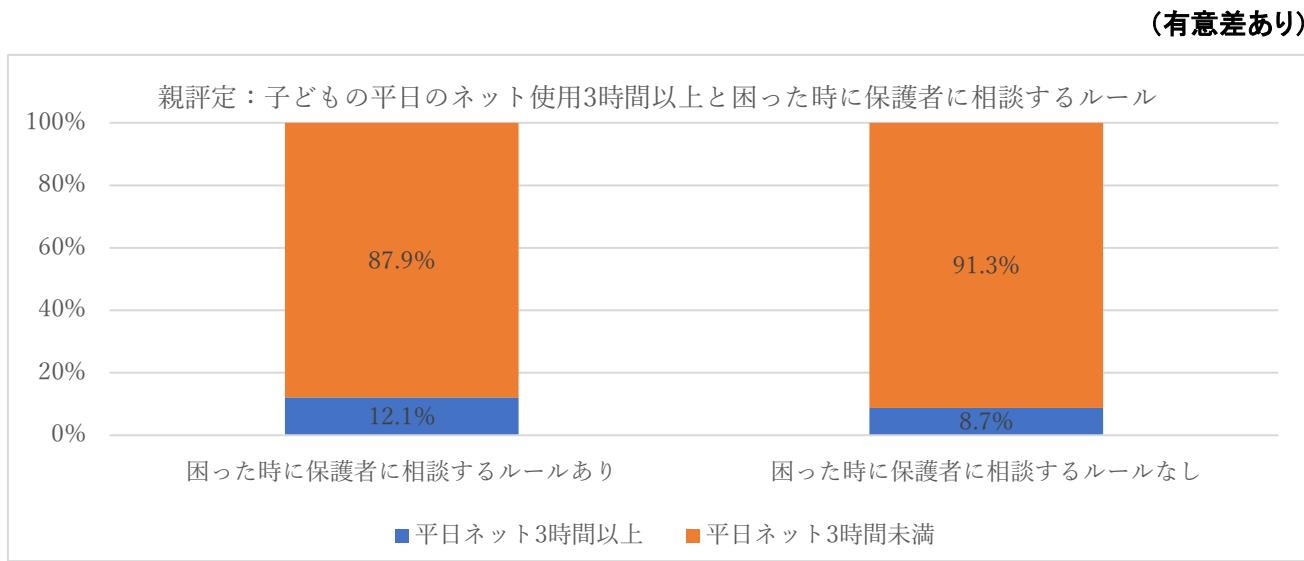
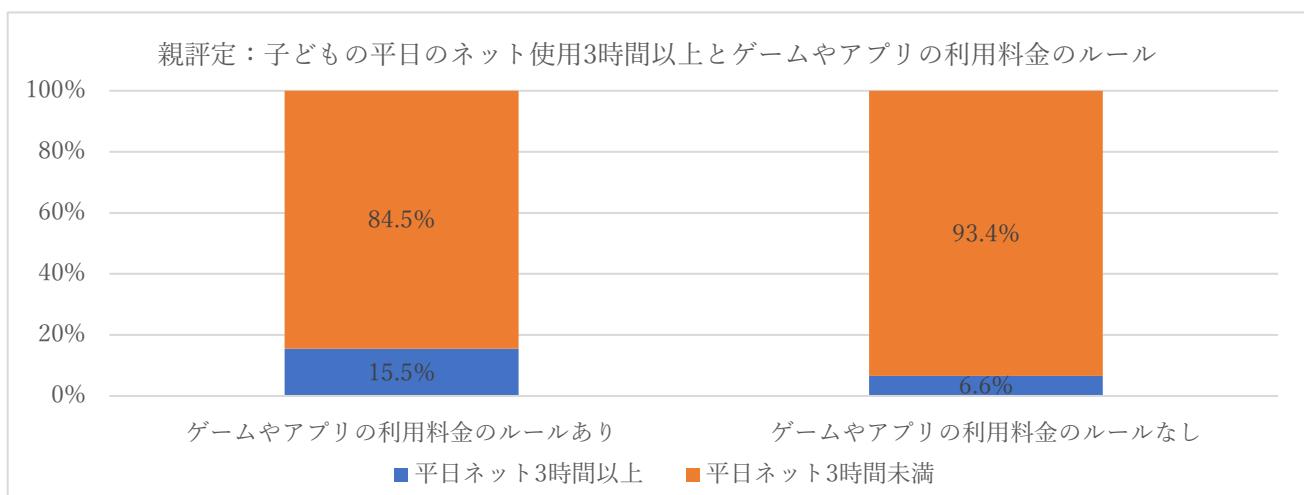
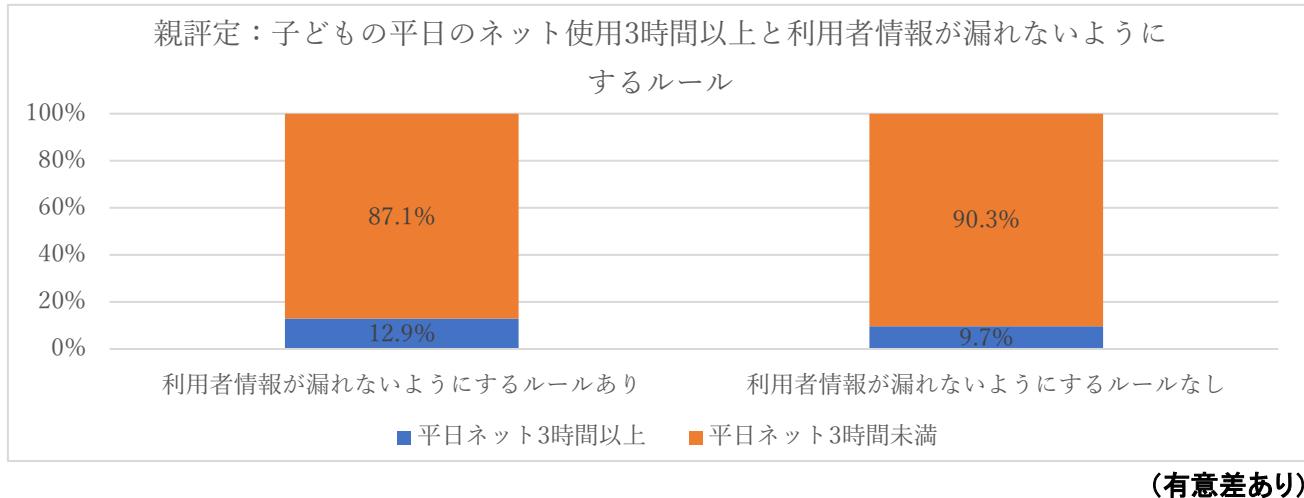
(有意差あり)



(有意差なし)

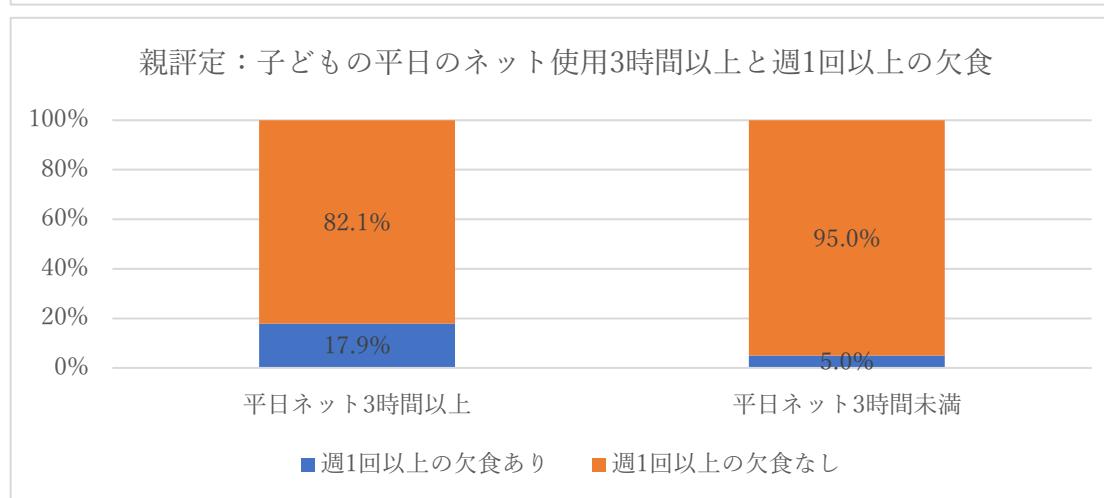
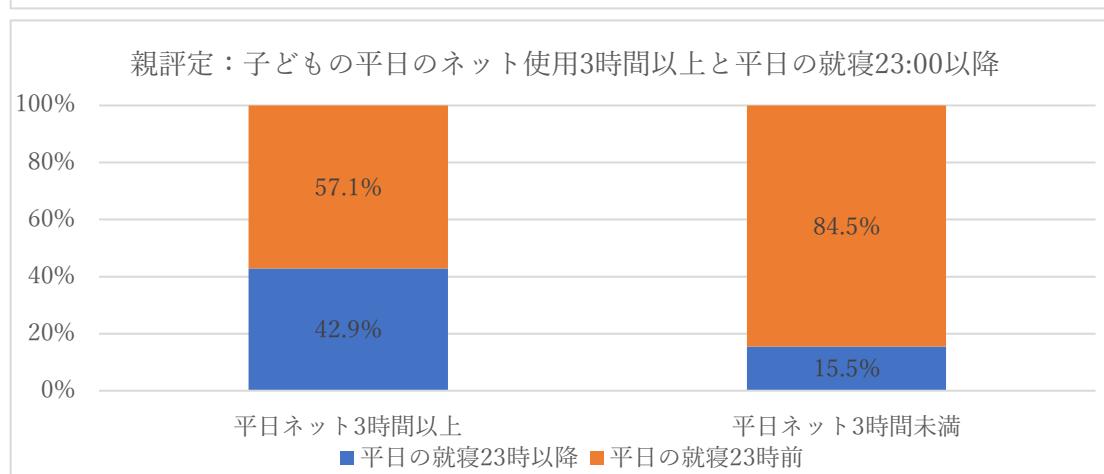
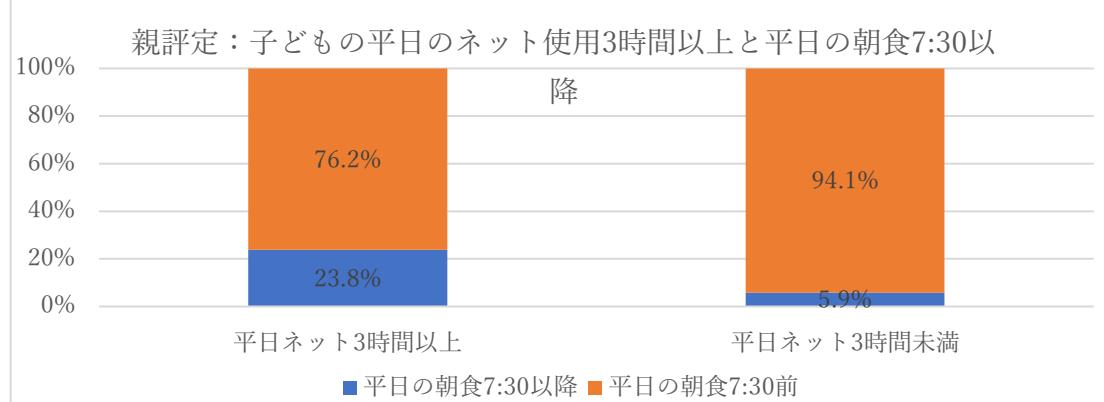
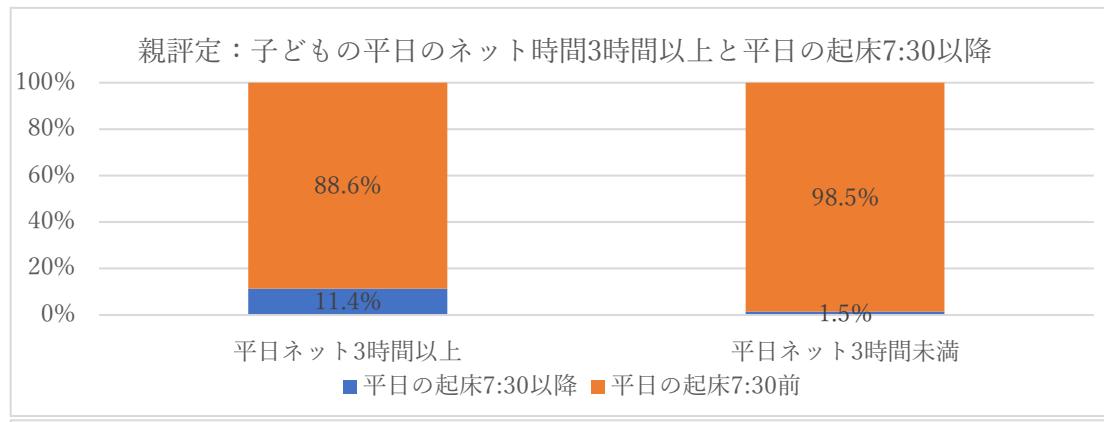


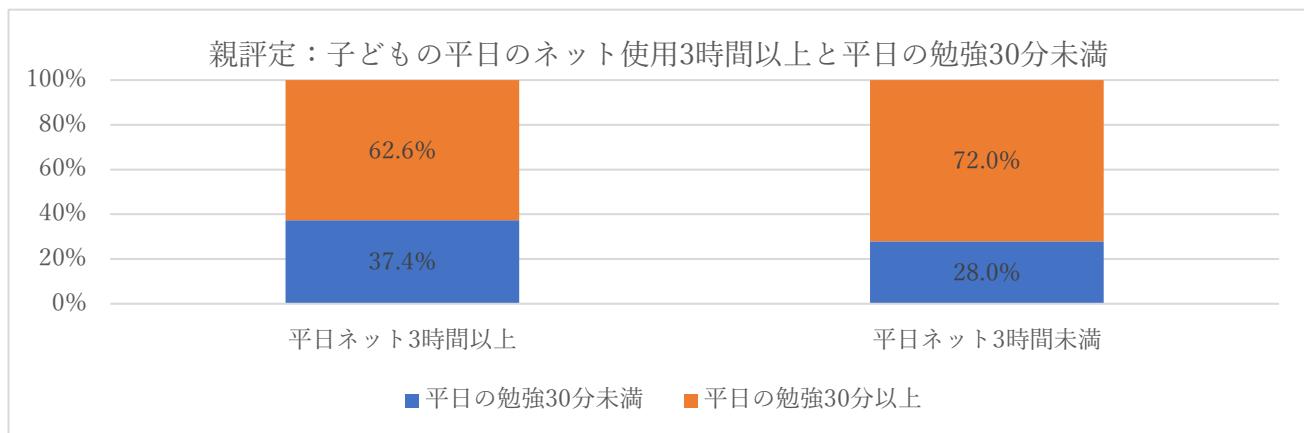
(有意差あり)



⇒利用時間のルールがある場合、子どもの平日のネット使用時間が3時間以上の割合が低い。一方、送信・投稿内容のルール、情報漏洩しないようにするルール、ゲームやアプリの利用料金のルール、困った時に相談するルールはある場合、子どもの平日のネット使用時間3時間以上の割合が高い。これは、ネット長時間使用に対する対策としてルール決めをしていることが考えられる。横断研究のため、因果関係は不明であるが、利用時間のルール決めは、ネットの長時間使用を予防する上で効果がある可能性があるが、縦断研究での検証が必要である。

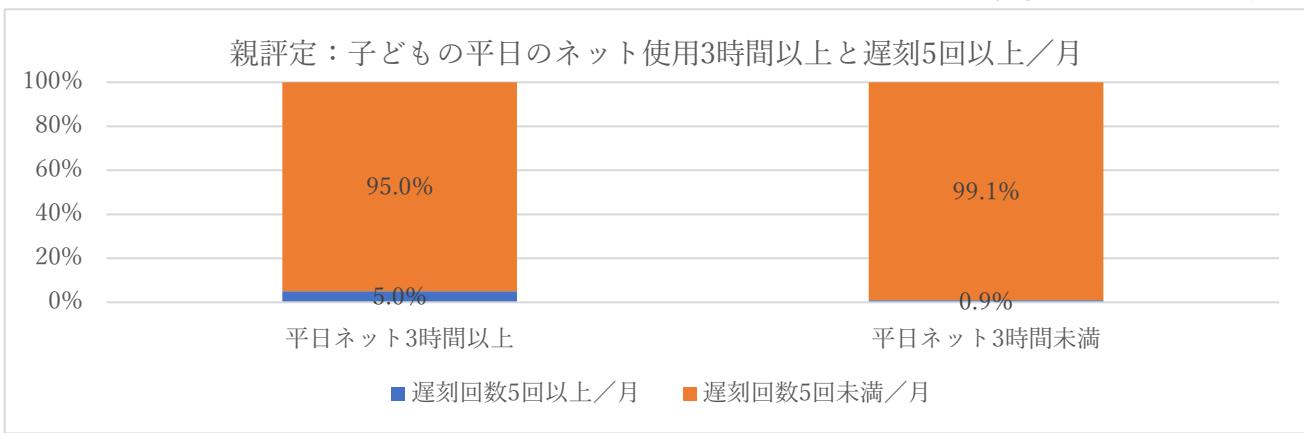
親評定による子どもの平日のネット使用3時間以上と影響になりうる変数との関連(χ²乗検定)





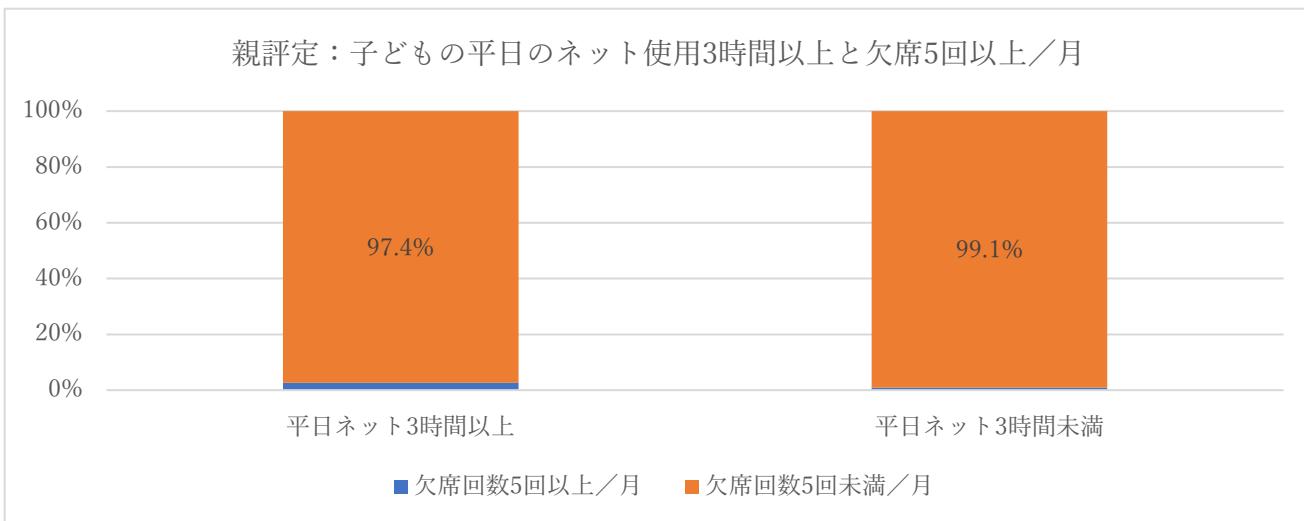
(有意差あり)

※休日の勉強時間とも有意差あり



(有意差あり)

※月3回以上の遅刻、月1回以上の遅刻とも有意差あり

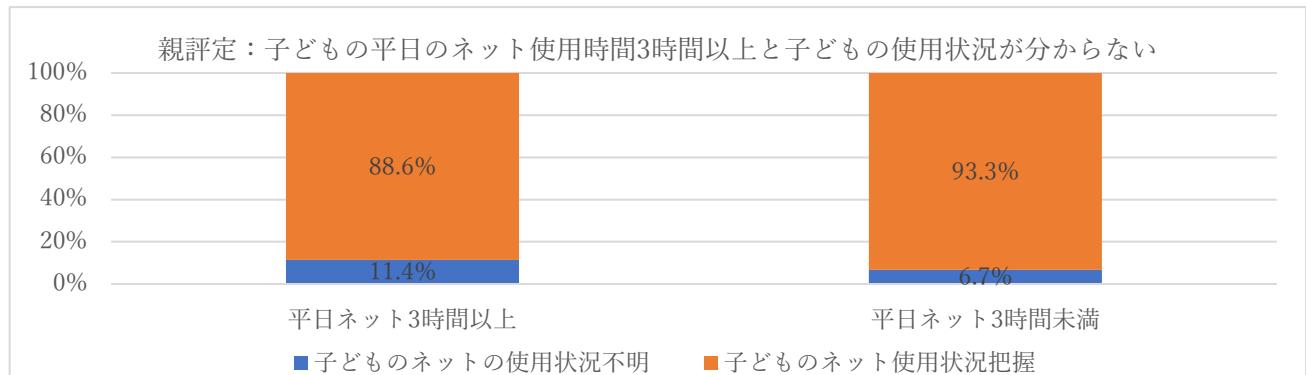


(有意差あり)

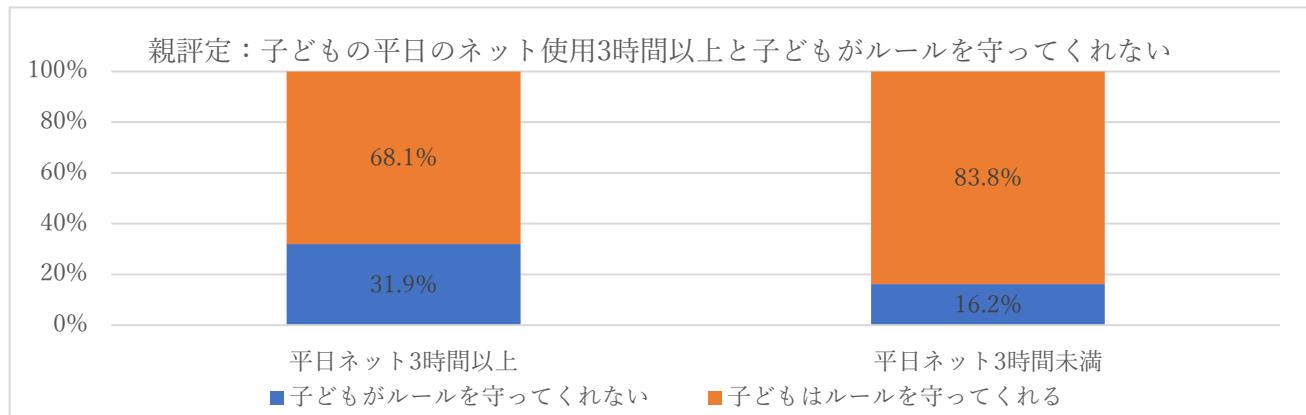
※月3回以上の欠席、月1回以上の欠席とも有意差あり

⇒親評定による子どもの平日のネット使用3時間以上の場合、起床や朝食が7:30以降、就寝時間が23:00以降、欠食、学習時間がない(少ない)、遅刻、欠席の割合が高かった。メディアの長時間使用と生活習慣や学業と関連しているため、メディアを含めた健やかな生活習慣、学習習慣づくりについて対策が必要である。

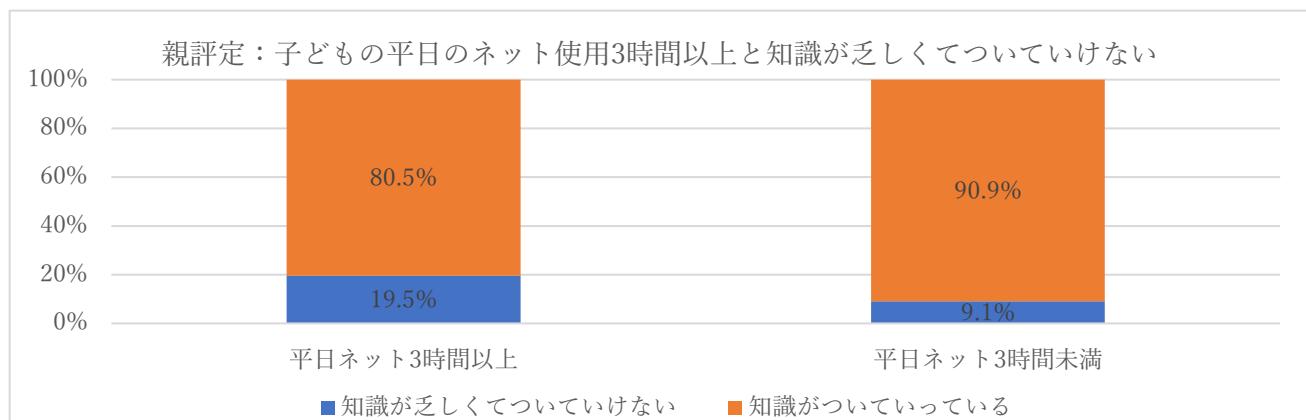
親評定による子どもの平日のネット使用3時間以上と困り事との関連(χ^2 乗検定) 抜粋



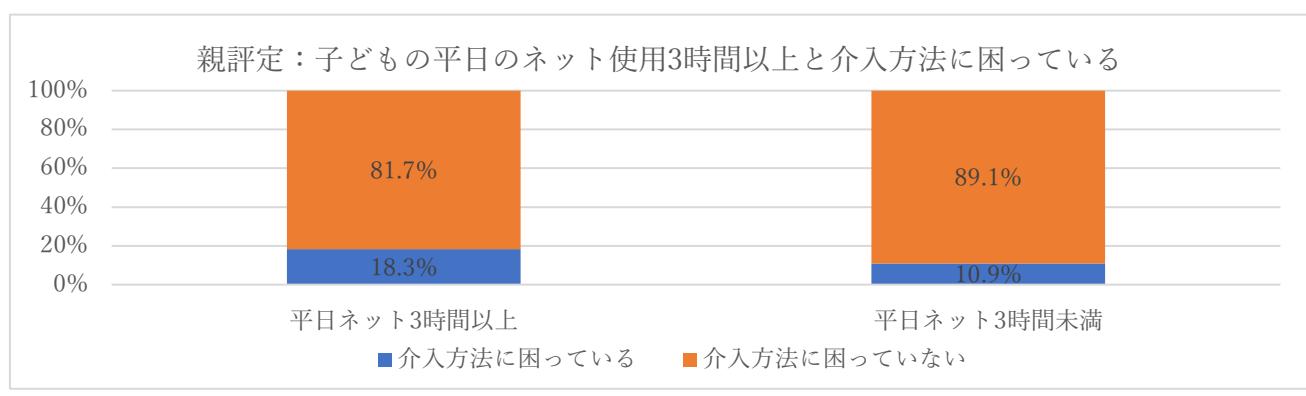
(有意差あり)



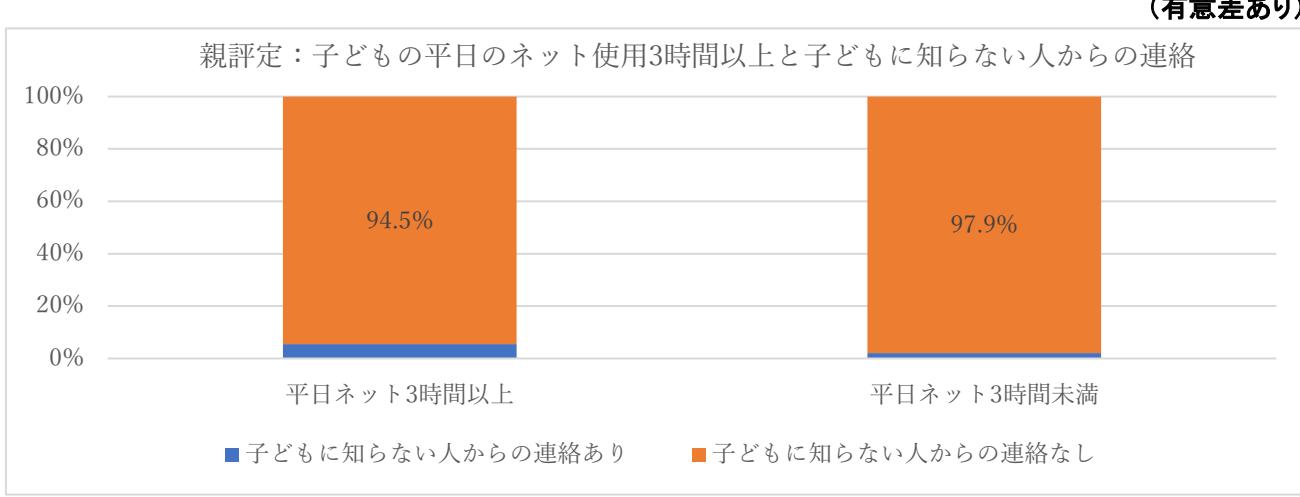
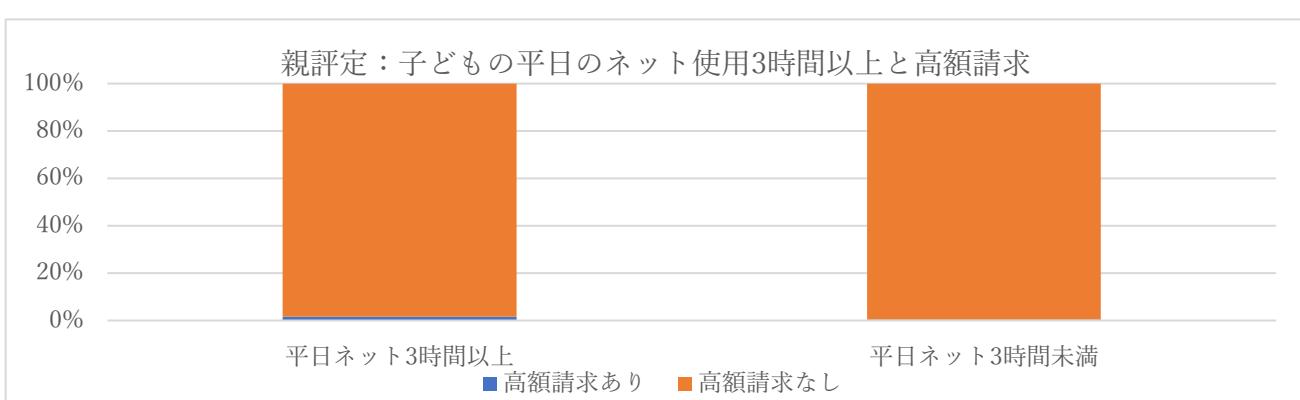
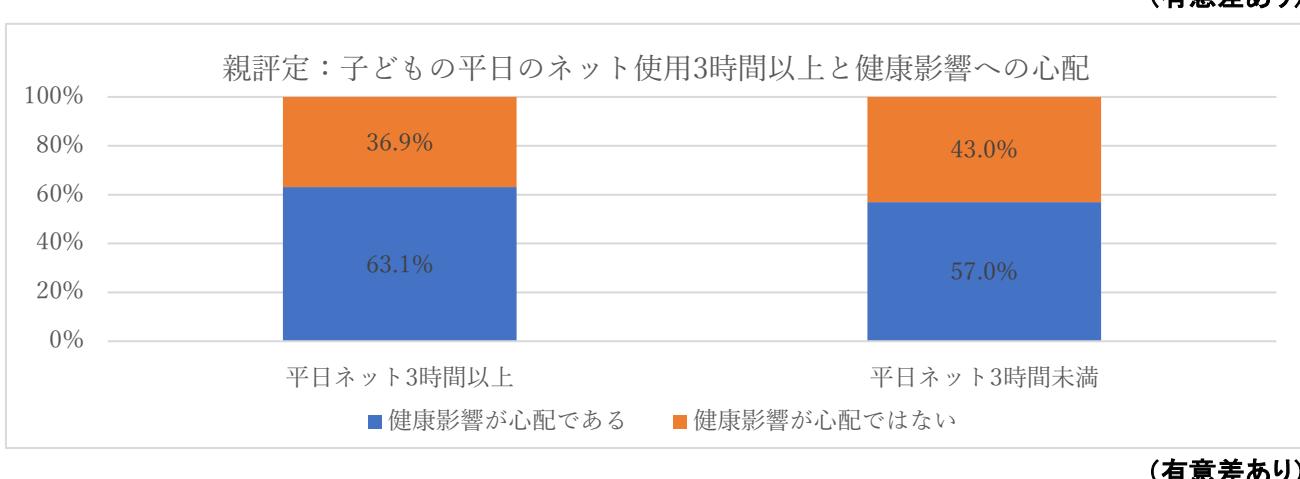
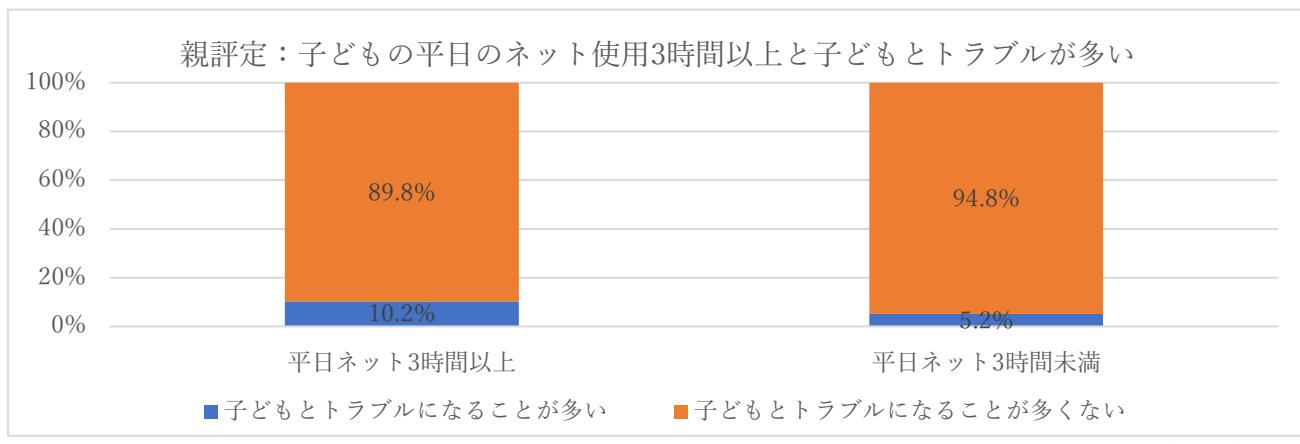
(有意差あり)

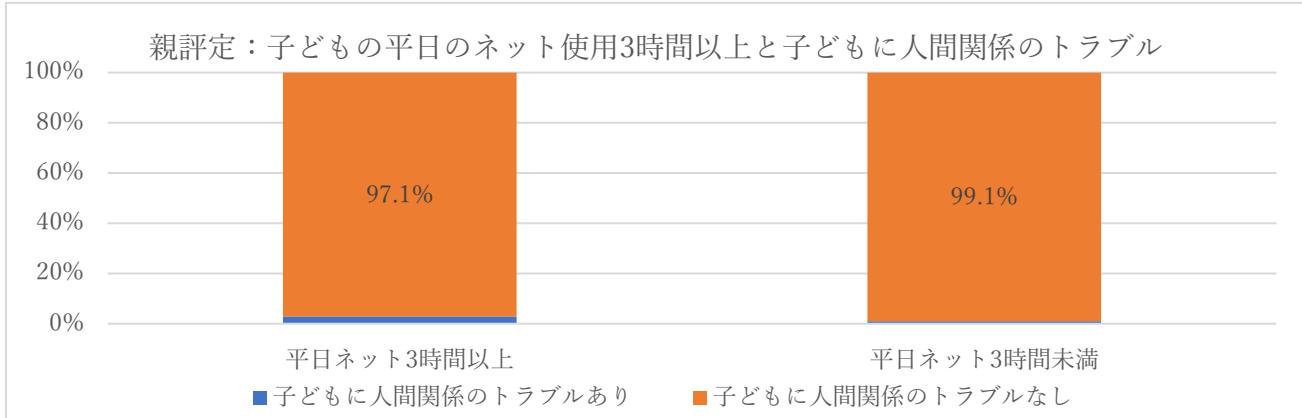


(有意差あり)

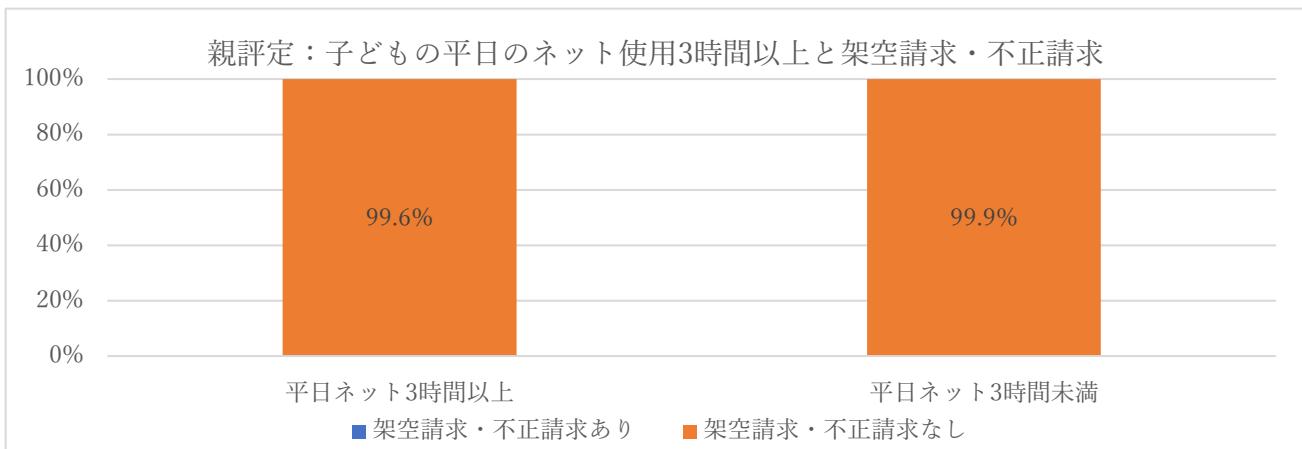


(有意差あり)





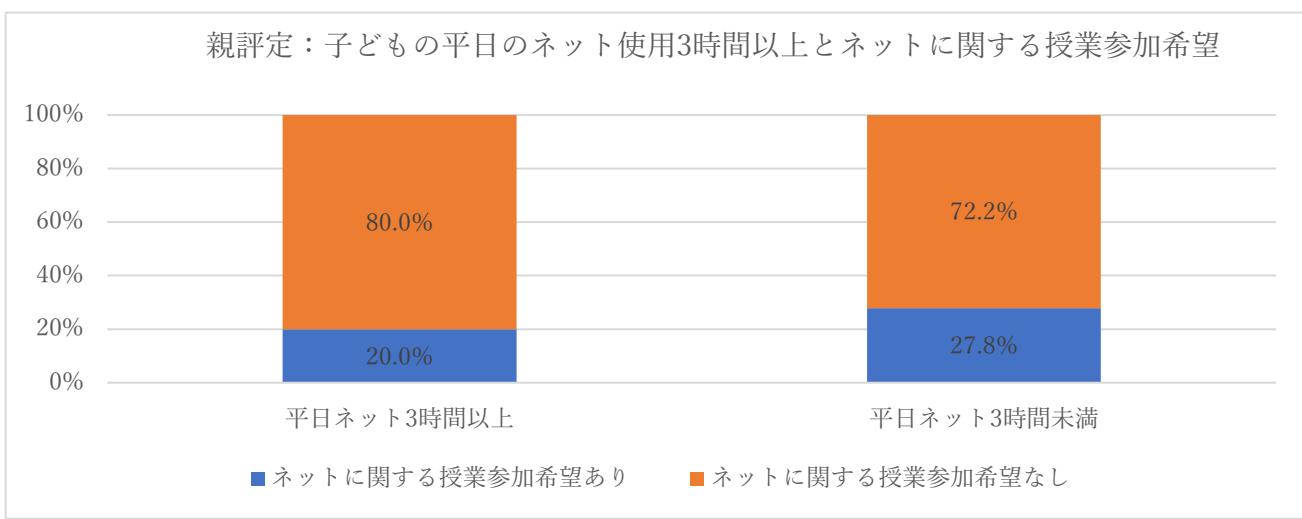
(有意差あり)



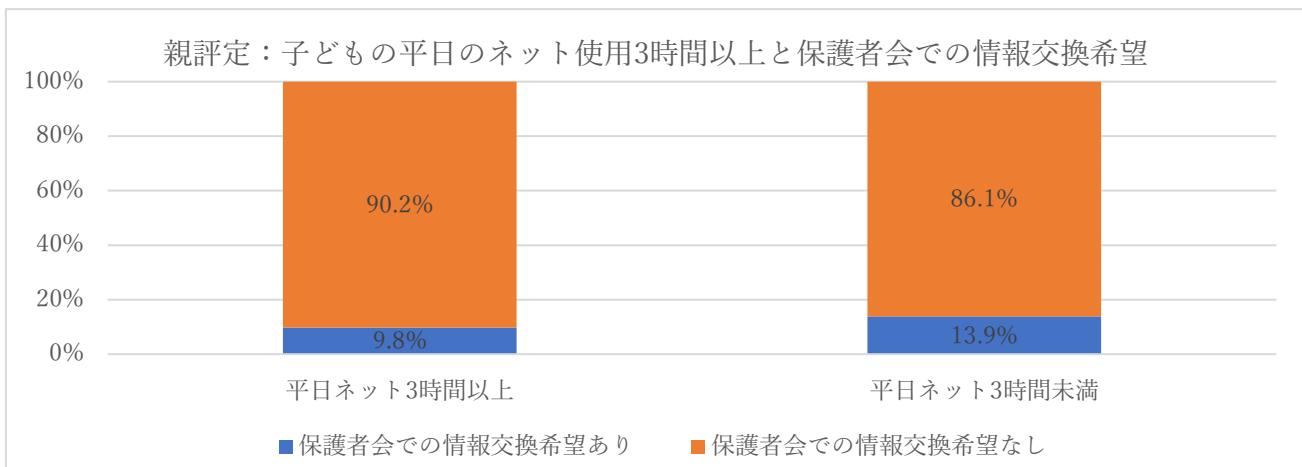
(有意差あり)

⇒親評定による子どもの平日のネット使用3時間以上の場合、使用状況不明、ルールを守ってくれない、知識が乏しくてついていけない、介入方法に困る、子どもとのトラブル、健康影響が心配、高額請求、知らない人からの連絡、人間関係トラブル、架空・不正請求で困っている割合が有意に高い。親の困り事への対応と、子どもの長時間のネット使用に伴う困り事が生じないような予防教育や適切なメディアの使用方法についての教育が必要である。

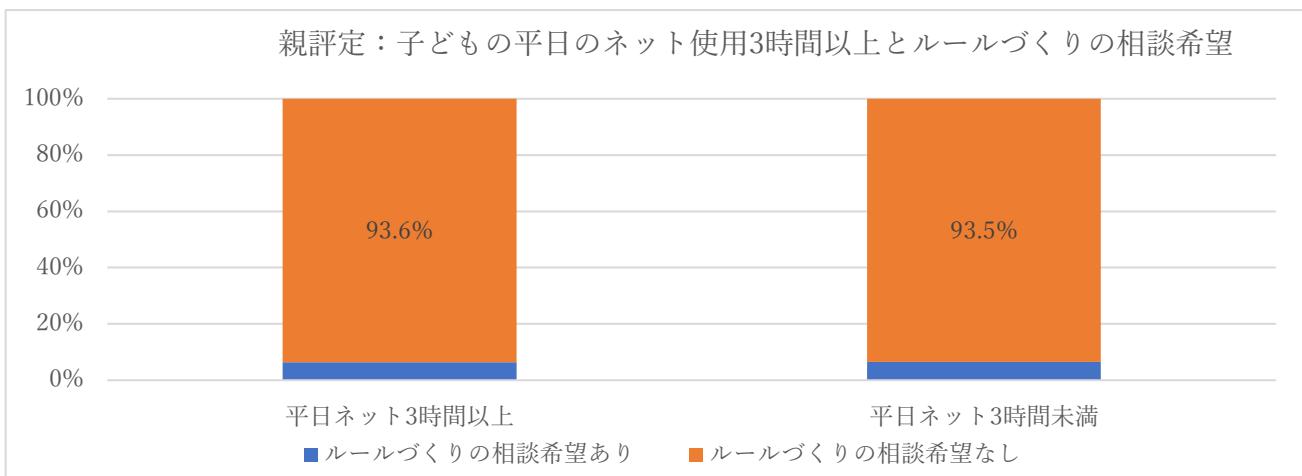
親評定による子どもの平日のネット使用3時間以上と学校に求めることとの関連(χ^2 乗検定) 抜粋



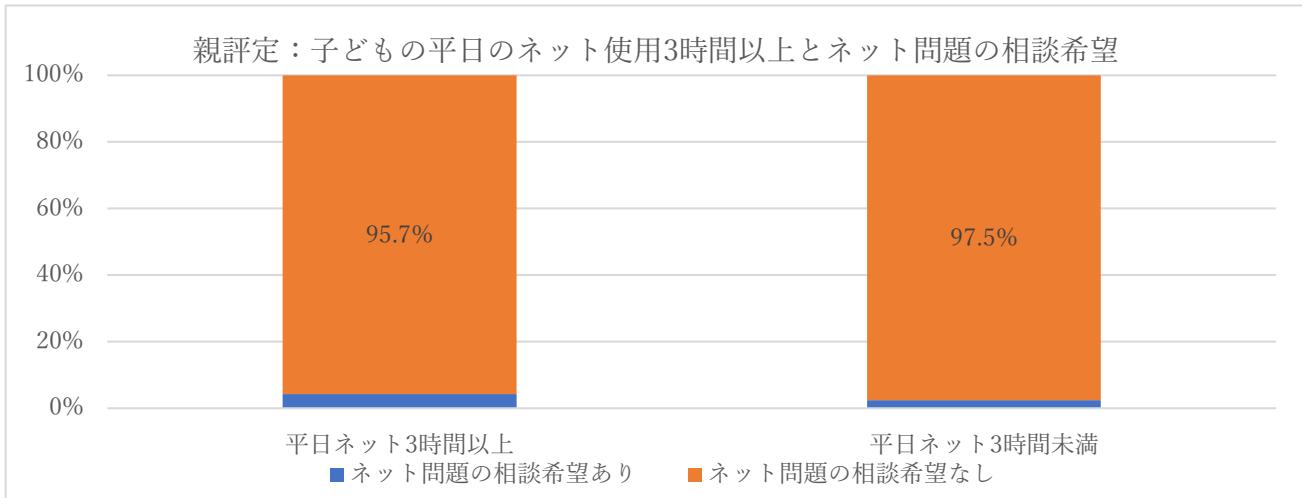
(有意差あり)



(有意差あり)



(有意差なし)



(有意差あり)

→親評定による子どもの平日のネット使用 3 時間以上の場合、授業参加の希望、保護者会での情報交換の希望をする保護者の割合は低いが、ネット問題の個別相談を希望する割合は高い。ネット問題を抱える子どもとその親子への個別支援が求められる。